
羽村市 防災に関する市民 アンケート報告書

平成25年3月

羽 村 市



目 次

I アンケートの概要と結果の要約	1
1 アンケートの概要	3
1-1 調査目的	3
1-2 調査内容	3
1-3 調査実施概要	3
1-4 回収結果	3
1-5 調査回答者の属性	4
1-6 集計・分析におけるパターン分類の説明	5
1-7 調査結果を見る上での注意事項	7
II 防災に関する市民アンケート結果	9
地震への関心について	11
Q1 首都直下地震についてご存知ですか？	11
Q2 羽村市及び周辺地域で大地震が発生する確率はどのくらいだと思いますか？	12
Q3 立川断層帯での直下型地震が発生した場合、自宅やその周辺でどのような危険があると思いますか？	12
Q4 立川断層帯で直下型地震が発生した場合、あなたまたはご家族に危険があると思いますか？	13
Q5 災害発生時に、特に心配することは何ですか？	14
Q6 東日本大震災発生時にあなたはどちらにいましたか？	15
Q7 地震発生時、とっさに何をしましたか？	16
Q8 東日本大震災当日、特に困ったことはどのようなことですか？	17
Q9 地震発生時、あなたがいた場所はどこですか？	18
Q9-1 東日本大震災当日は帰宅できましたか？	19
Q9-2 (帰宅できた方) 主にどのような手段で帰宅しましたか？	20
Q9-3 (徒歩で帰宅した方) 帰宅する際にどのような困難な状況がありましたか？	21
Q9-4 (徒歩で帰宅した方) 水やトイレを利用した施設はどこですか？	21
Q10 (帰宅できなかった方) 帰宅困難になった際、困ったことはどのようなことですか？	22
Q11 東日本大震災発生時に家族とどのように連絡を取りましたか？今後災害発生時にはどのように連絡を取る予定ですか？	23
日ごろの防災対策について	25
Q12 震災時の家族との集合場所を決めていますか？	25

Q13	東日本大震災前から行っていた地震対策は何ですか？ 震災後、地震に備えて行った対策は何ですか？	26
Q14	自宅に通常買い置いている食料で災害時に何日程度暮らせ ると思いますか？	27
Q15	自宅で災害用に備蓄している食料（調理不要な食品）は 何日分程度ですか？	28
Q16	自宅で災害用に備蓄している「飲料水」は何日分程度で すか？	29
家庭内の安全対策と住居の耐震化について		30
Q17	自宅の家具転倒防止のための対策を講じていますか？	30
Q18	自宅は、いつ頃建てられたものですか？	31
Q19	（昭和56年5月以前に建てられた方）自宅の耐震診断をした ことがありますか？	31
Q20	（昭和56年5月以前に建てられた方）市では「耐震診断」、 「耐震改修」に対する補助制度を設けていることを知って いますか？	32
災害時の避難について		33
Q21	災害時に避難する場合、自分の住む地域の一時集合場所、 避難場所、避難所を知っていますか？	33
Q22	災害時に避難する場合、特に心配なことは何ですか？	34
防災訓練について		35
Q23	過去1年間に地域の防災訓練に参加したことがあります か？	35
Q23-1	（参加しなかった方）参加しなかった理由は何ですか？	36
Q23-2	（参加しなかった方）地域で参加を要請された場合は参加 すると思いますか？	36
災害時要援護者対策について		37
Q24	市が実施している災害時要援護者制度について知っていま すか？	37
Q25	災害発生時に避難する際、近所に高齢者や障害者がいた 場合に、誘導しながら避難することができると思いますか？	38
回答者の考えについて		39
Q26	日ごろの防災に関する考えについて記入してください。	39
Ⅲ	調査票	49

I アンケートの概要と結果の要約

1 アンケートの概要

1-1 調査目的

羽村市地域防災計画の改定にあたり、市民の防災に関する意識や日頃からの災害への備えの実態を把握し、これを反映させることで計画の実効性を高めるとともに、今後の防災施策や事業を、より効率的、効果的に推進することを目的とする。

1-2 調査内容

本調査の質問内容の概要は、以下のとおりである。詳細については巻末の「付 調査票」を参照。

- (1) 地震災害への関心度
- (2) 東日本大震災発生時の状況
- (3) 日頃の防災対策
- (4) 家庭内の安全対策と住居の耐震化
- (5) 災害時の避難について
- (6) 防災訓練について
- (7) 災害時要援護者対策について
- (8) 回答者自身の防災に関する考え
- (9) 回答者本人の情報

1-3 調査実施概要

本調査は、以下の要領で実施した。

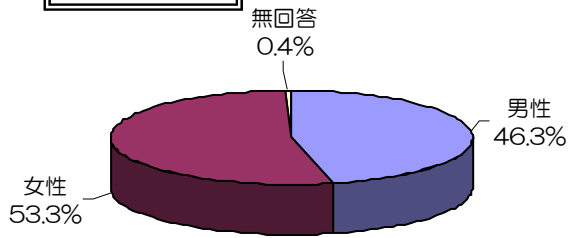
- (1) 母集団 市内に居住する満 20 歳以上の男女（抽出時点）
- (2) 標本数 1,000 人
- (3) 対象者 住民基本台帳より無作為抽出
- (4) 調査地域 羽村市全域
- (5) 調査期間 平成 24 年 12 月 5 日～12 月 25 日
- (6) 調査方法 郵送調査法

1-4 回収結果

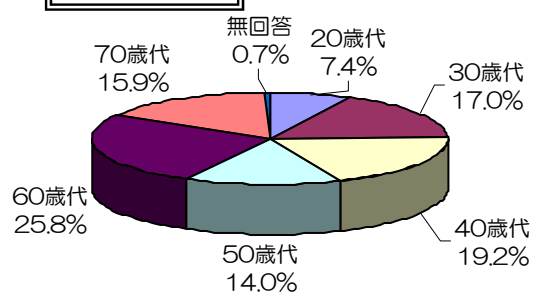
- (1) 標本数 1,000 人
- (2) 有効回収数 458 人
- (3) 有効回収率 45.8%

1-5 調査回答者の属性

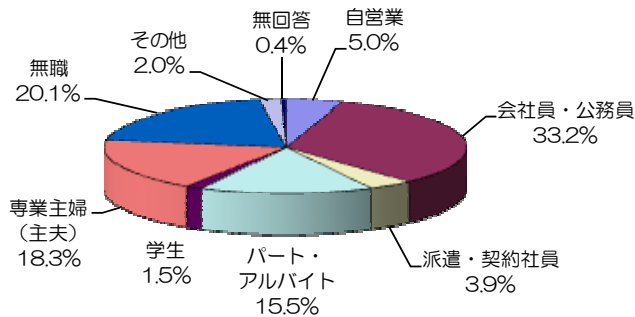
1 性別



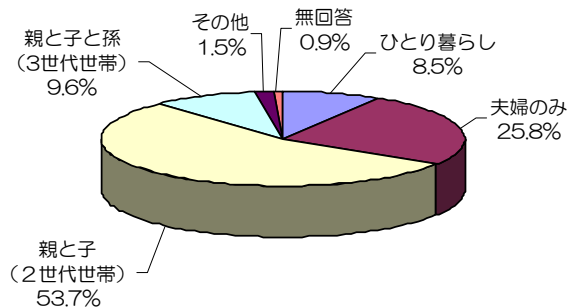
2 年齢



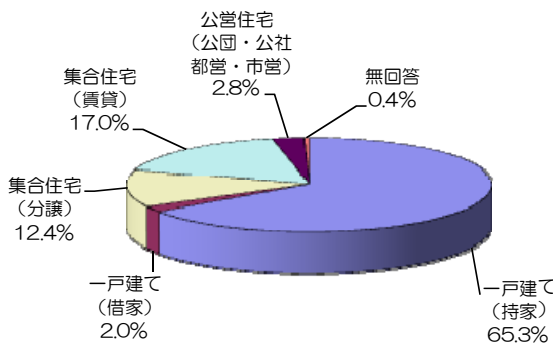
3 職業



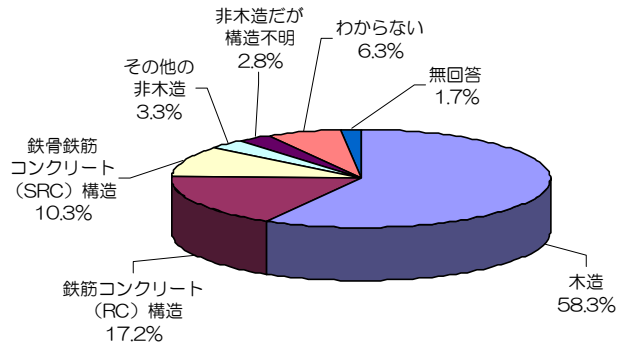
4 家族構成



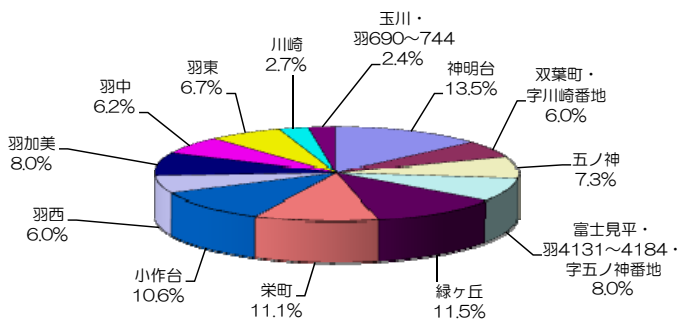
5 住宅の形態



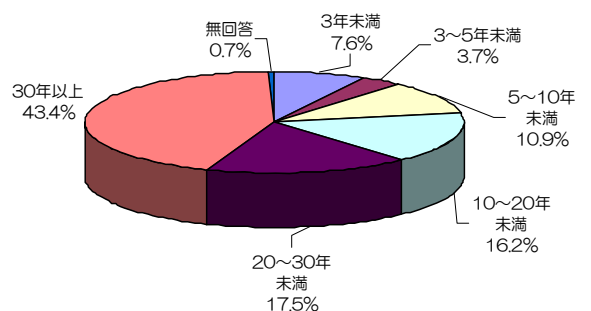
6 住宅の構造



7 地域



8 羽村市に住み始めて何年



1-6 集計・分析におけるパターン分類の説明

設問の中に、日ごろの防災対策の準備度に関連する質問を設定し、それぞれに得点を与えてスケール化し、回答者の「防災準備度」に関するパターン分類を行った。

パターン分類は、以下の通りである。

1	地震対策として行っていたこと Q13	1～16の記入合計が 1～3個 … 1点 4～7個 … 2点 8～12個 … 3点 13～16個 … 4点 1～16の記入がない場合 } … 0点 17 何もしていない }
2	食料の備蓄日数 Q15	1 1日分 } …… 1点 2 2日分 } 3 3日分 } 4 4日分 } …… 2点 5 5日分 } 6 6日分 } 7 7日以上 } 8 備蓄していない …… 0点
3	飲料水の備蓄日数 Q16	1 1日分 } …… 1点 2 2日分 } 3 3日分 } 4 4日分 } …… 2点 5 5日分 } 6 6日分 } 7 7日以上 } 8 備蓄していない …… 0点
4	家具類の固定 Q17	1・2 すべて・大部分固定している … 2点 3 一部固定している …… 1点 4・5 固定していない …… 0点
5	地域の一時集合場所、避難場所、避難所の認識 Q21	1 知っている …… 2点 2・3 知らない・わからない …… 0点
6	過去1年間の防災訓練の参加経験 Q23	1 参加した …… 2点 2 参加しなかった …… 0点
合計		14点

上表の質問について、それぞれの回答の得点を加算し、防災準備度を次のように「高」「中」「低」に分類した。

得点合計が「10～14点」の者 …… 防災準備度「高」

「5～9点」の者 …… 防災準備度「中」

「0～4点」の者 …… 防災準備度「低」

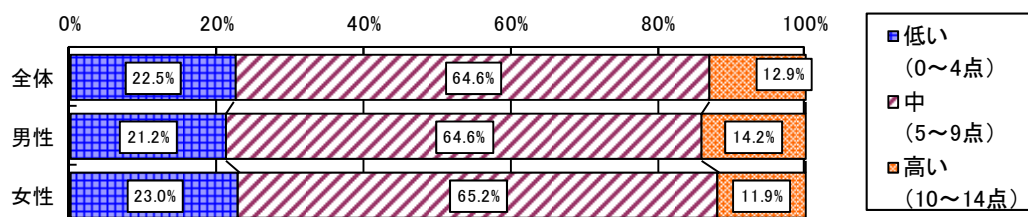
回答の結果から、防災準備度の点数の分布は次に示すとおりとなっている。

(上段:件、下段:%)

調査数	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	11点	12点	13点	14点
458	5	11	17	27	43	49	67	73	54	53	35	16	5	3	0
	1.1	2.4	3.7	5.9	9.4	10.7	14.6	15.9	11.8	11.6	7.6	3.5	1.1	0.7	0.0

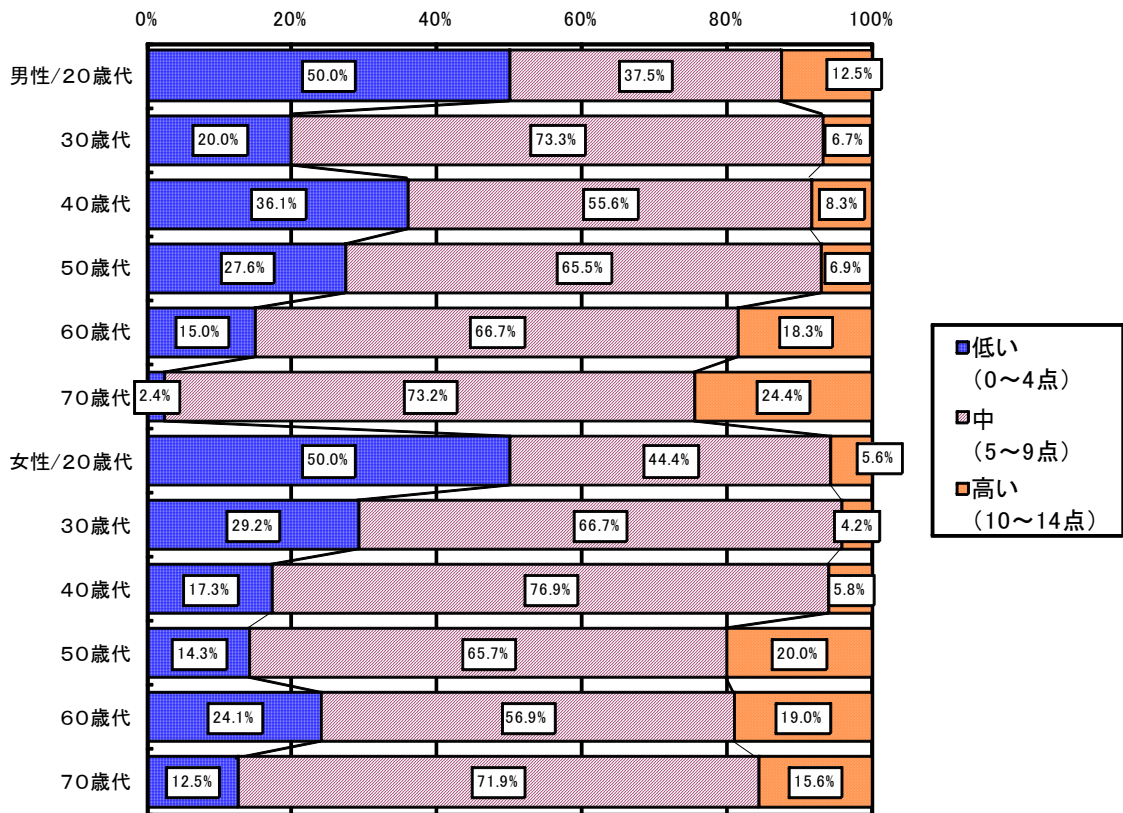
全体

	低い (0~4点)	中 (5~9点)	高い (10~14点)	
全体	103	296	59	458
男性	45	137	30	212
女性	56	159	29	244



属性別

	低い (0~4点)	中 (5~9点)	高い (10~14点)	
男性/20歳代	8	6	2	16
30歳代	6	22	2	30
40歳代	13	20	3	36
50歳代	8	19	2	29
60歳代	9	40	11	60
70歳代	1	30	10	41
女性/20歳代	9	8	1	18
30歳代	14	32	2	48
40歳代	9	40	3	52
50歳代	5	23	7	35
60歳代	14	33	11	58
70歳代	4	23	5	32



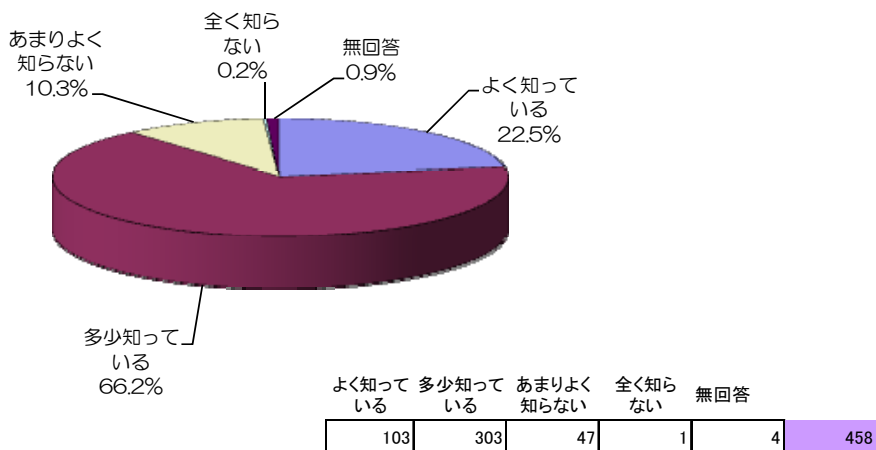
1-7 調査結果を見る上での注意事項

- ▶ 本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ▶ 百分率（％）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、％を足し合わせて100％にならない場合がある。
- ▶ 複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、％の合計が100％を超える場合がある。
- ▶ 本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。

II 防災に関する市民アンケート結果

地震への関心について

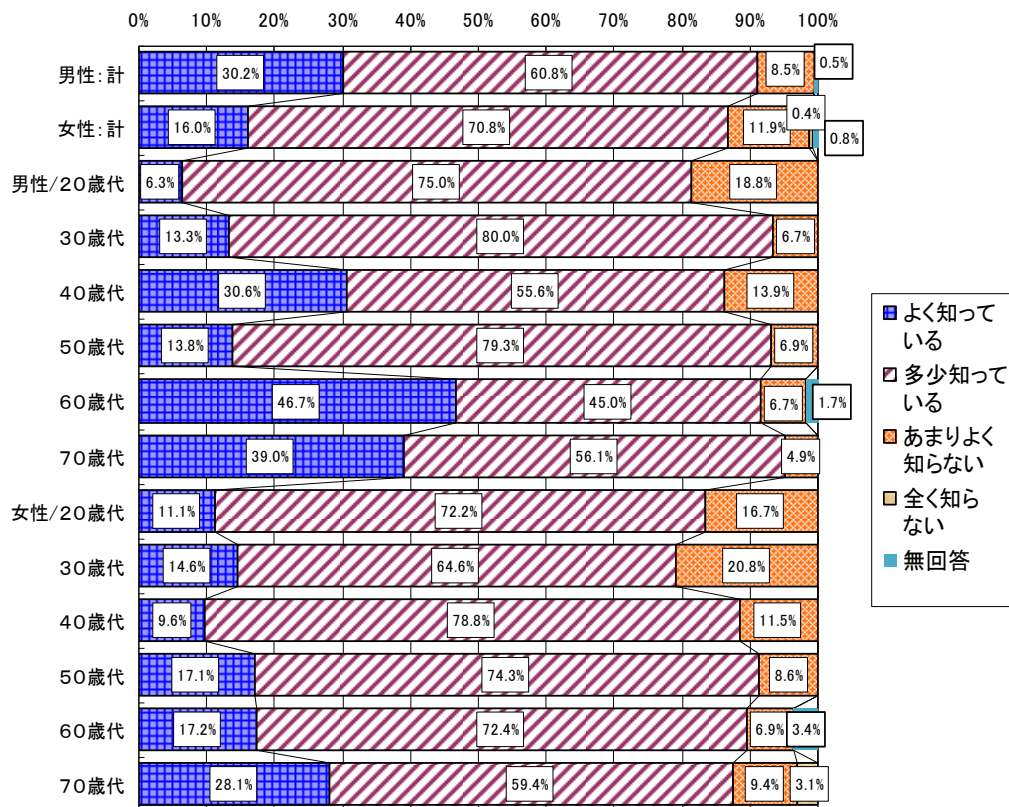
Q1 首都直下地震についてご存知ですか？



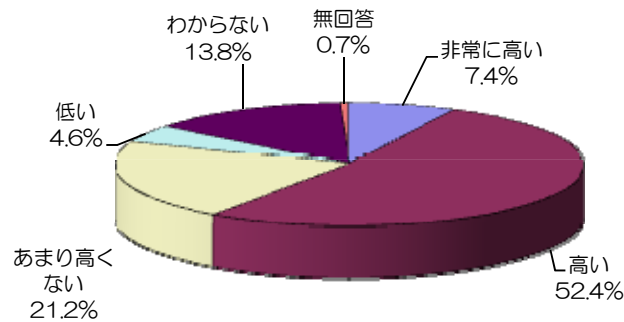
首都直下地震についての認知状況についてたずねたところ、「よく知っている」(22.5%)と「多少知っている」(66.2%)を合わせた『知っている』と回答した市民は88.7%となっている。

性別・年代別でみると、「よく知っている」と「多少知っている」を合わせた『知っている』との回答は、男性で91.0%、女性で86.8%となっており、男性で高い割合となっている。特に「よく知っている」との回答は男性で30.2%、女性で16.0%と男性が多い結果となっている。

年代別では、「よく知っている」との回答は男性・女性ともに60歳代以上で多い結果となっている。



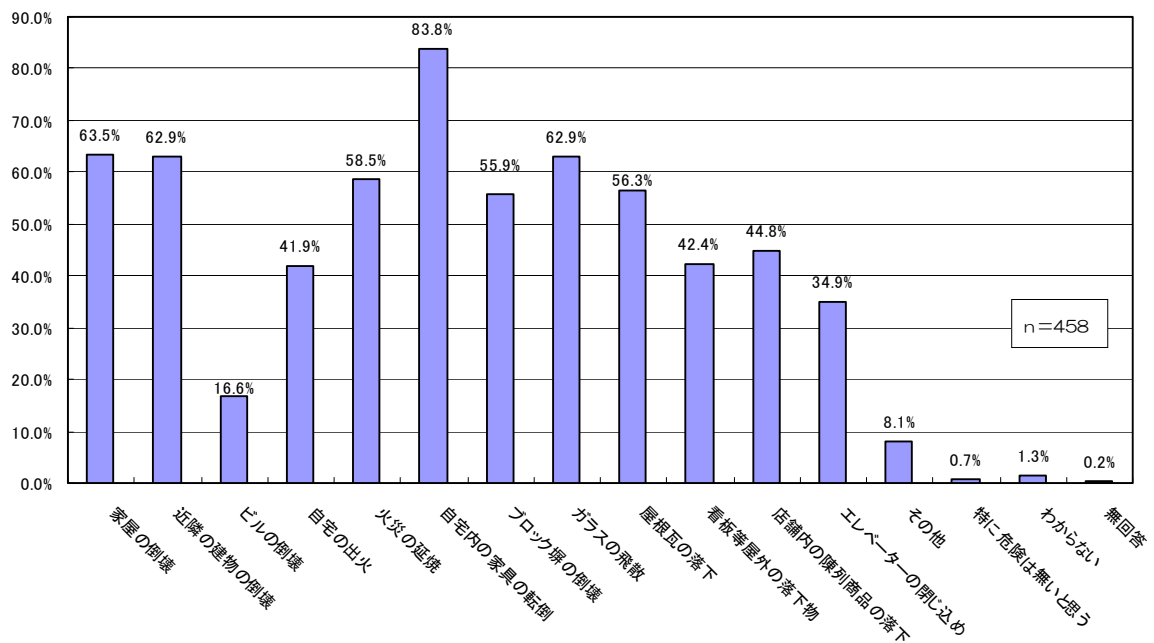
Q2 羽村市及び周辺地域で大地震が発生する確率は何のくらいだと思いますか？



非常に高い	高い	あまり高くない	低い	わからない	無回答	合計
34	240	97	21	63	3	458

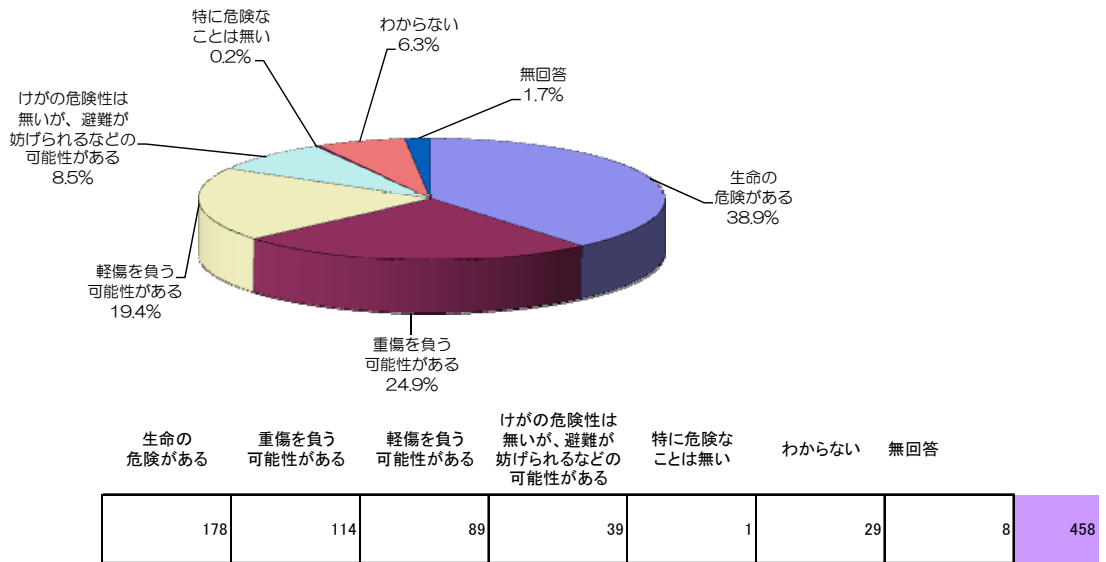
地域で大地震が発生する確率の高さについてたずねたところ、「非常に高い」（7.4%）と「高い」（52.4%）を合わせた『高い』と回答した市民が 59.8%となっている。また、「あまり高くない」（21.2%）と「低い」（4.6%）を合わせた『低い』と回答した市民が 25.8%となっており、『高い』と考えている市民が『低い』と考えている市民を上回っている。

Q3 立川断層帯での直下型地震が発生した場合、自宅やその周辺でどのような危険があると思いますか？



地震発生時の自宅や自宅周辺での危険性についてたずねたところ、「自宅内の家具の転倒」が83.8%と最も高く、次いで「家屋の倒壊」が63.5%、「近隣の建物の倒壊」、「ガラスの飛散」が62.9%と続いている。

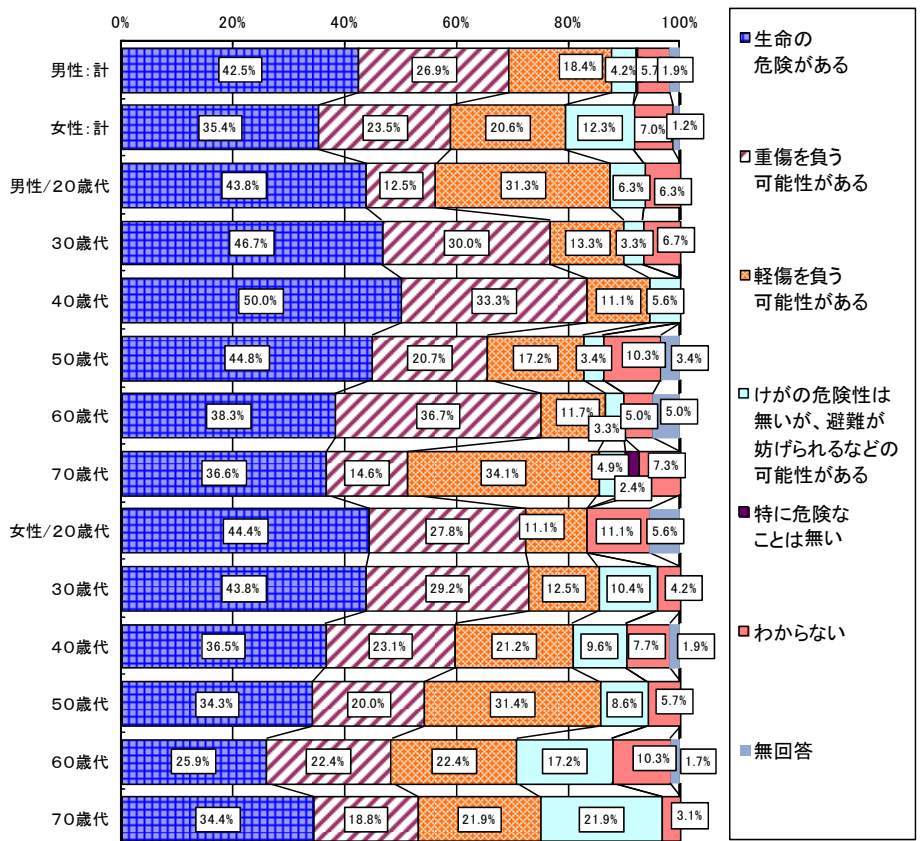
Q4 立川断層帯で直下型地震が発生した場合、あなたまたはご家族に危険があると思いますか？



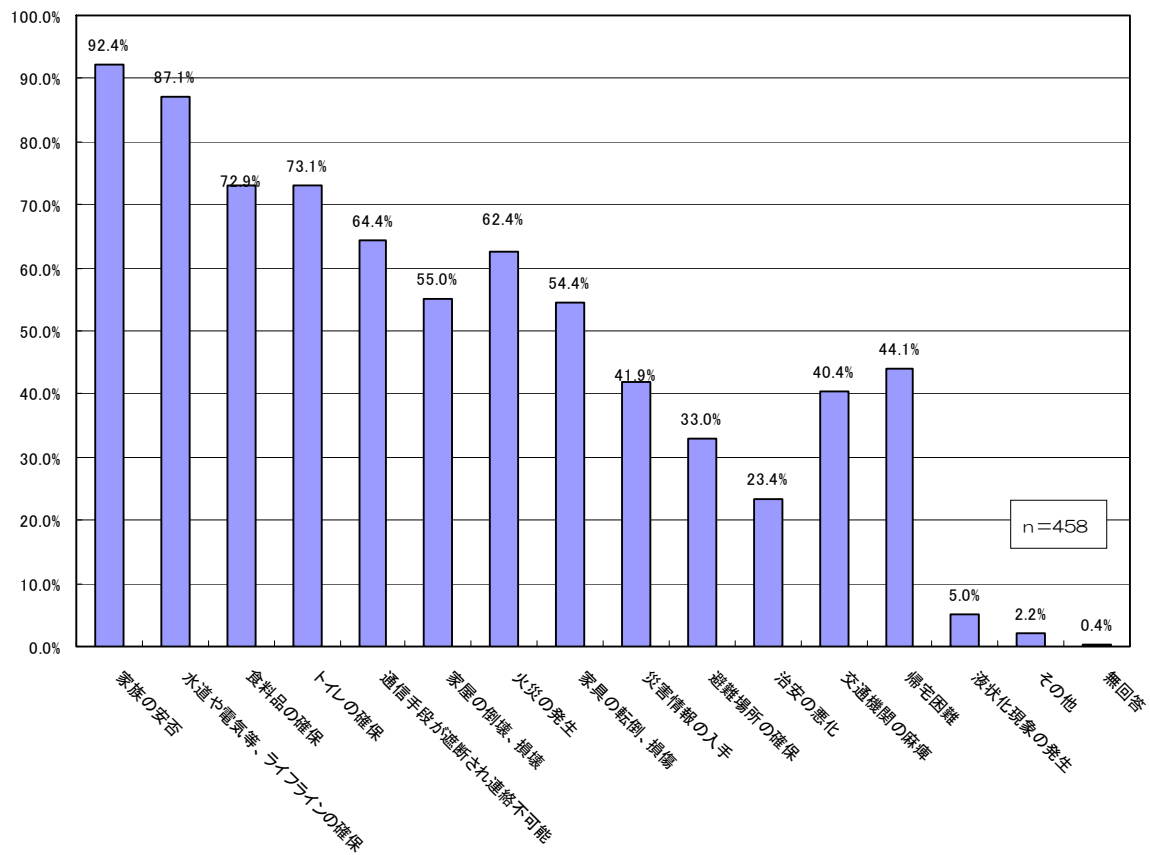
地震発生時の自身や家族の危険度についてたずねたところ、「命の危険がある」が38.9%と最も高く、次いで「重傷を負う可能性がある」が24.9%、「軽傷を負う可能性がある」が19.4%と続いている。

性別・年代別でみると、「命の危険がある」と「重傷を負う可能性がある」を合わせた『身体に甚大な危険がある』との回答は男性で69.4%、女性で58.9%と男性で高い結果となっている。

年代別では、「命の危険がある」との回答は男性・女性ともに60・70歳代では低い結果となっている。



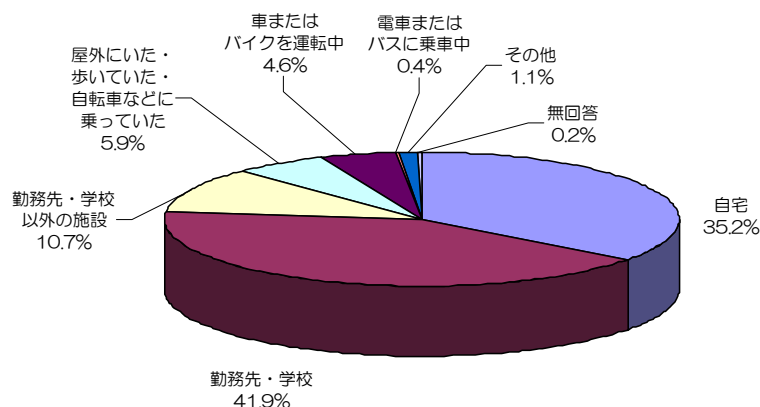
Q5 災害発生時に、特に心配することは何ですか？



災害発生時に、特に心配な点についてたずねたところ、「家族の安否」との回答が一番多く 92.4% であり、次いで「水道や電気等、ライフラインの確保」が 87.1%、「トイレの確保」73.1%、「食料品の確保」72.9%と続いている。

東日本大震災発生時の状況について

Q6 東日本大震災発生時にあなたはどちらにいましたか？

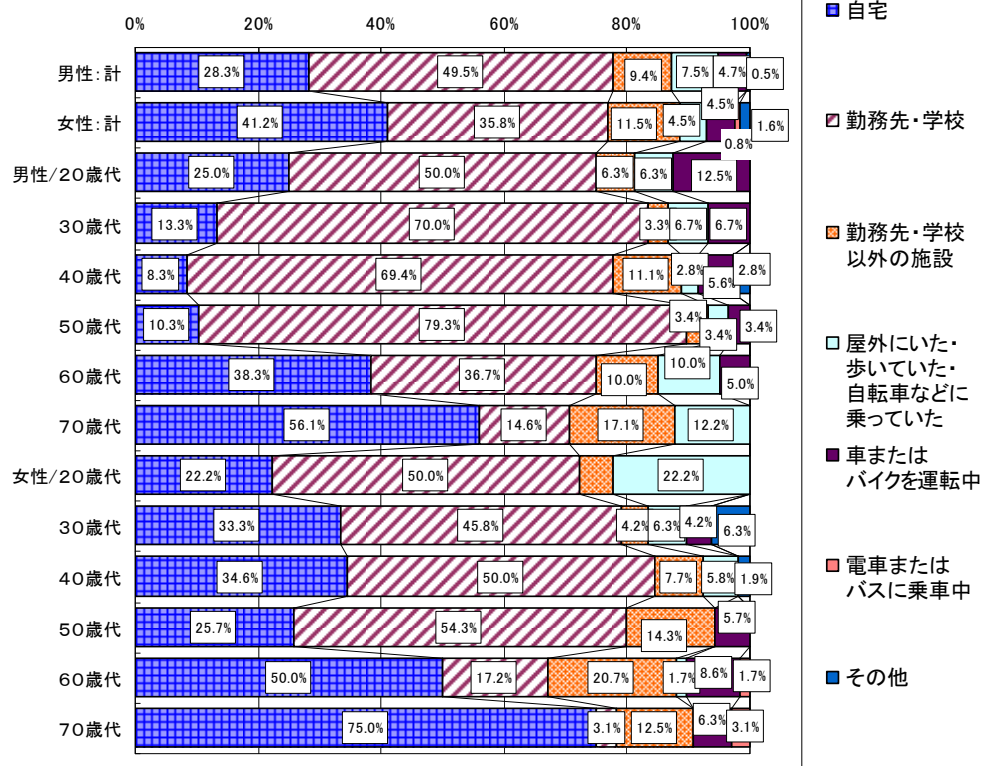


自宅	勤務先・学校	勤務先・学校以外の施設	屋外にいた・歩いていた・自転車などに乗っていた	車またはバイクを運転中	電車またはバスに乗車中	その他	無回答	合計
161	192	49	27	21	2	5	1	458

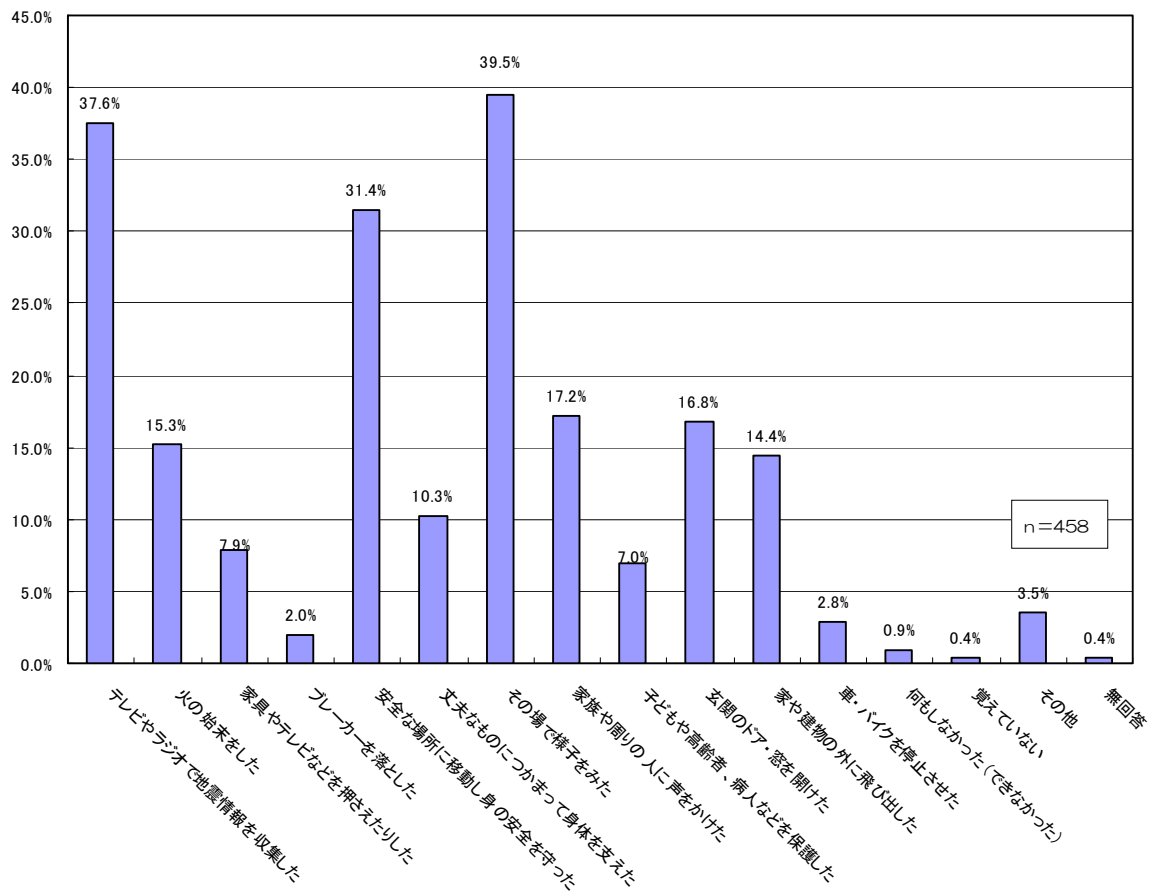
東日本大震災発生時の居場所についてたずねたところ、「勤務先・学校」と回答した方が41.9%で最も多く、次いで「自宅」が35.2%、「勤務先・学校以外の施設（屋内）」が10.7%、「屋外にいた・歩いていた・自転車などに乗っていた」が5.9%と続いている。

東日本大震災は発生時刻が平日の午後2時46分頃であり、50歳代までの回答では、男女ともに「勤務先、学校にいた」との回答が最も多くなっている。

一方、60・70歳代では男女ともに「自宅」で地震にあった方が一番高い割合となっている。70歳代女性では75.0%の方が自宅地震にあっている。

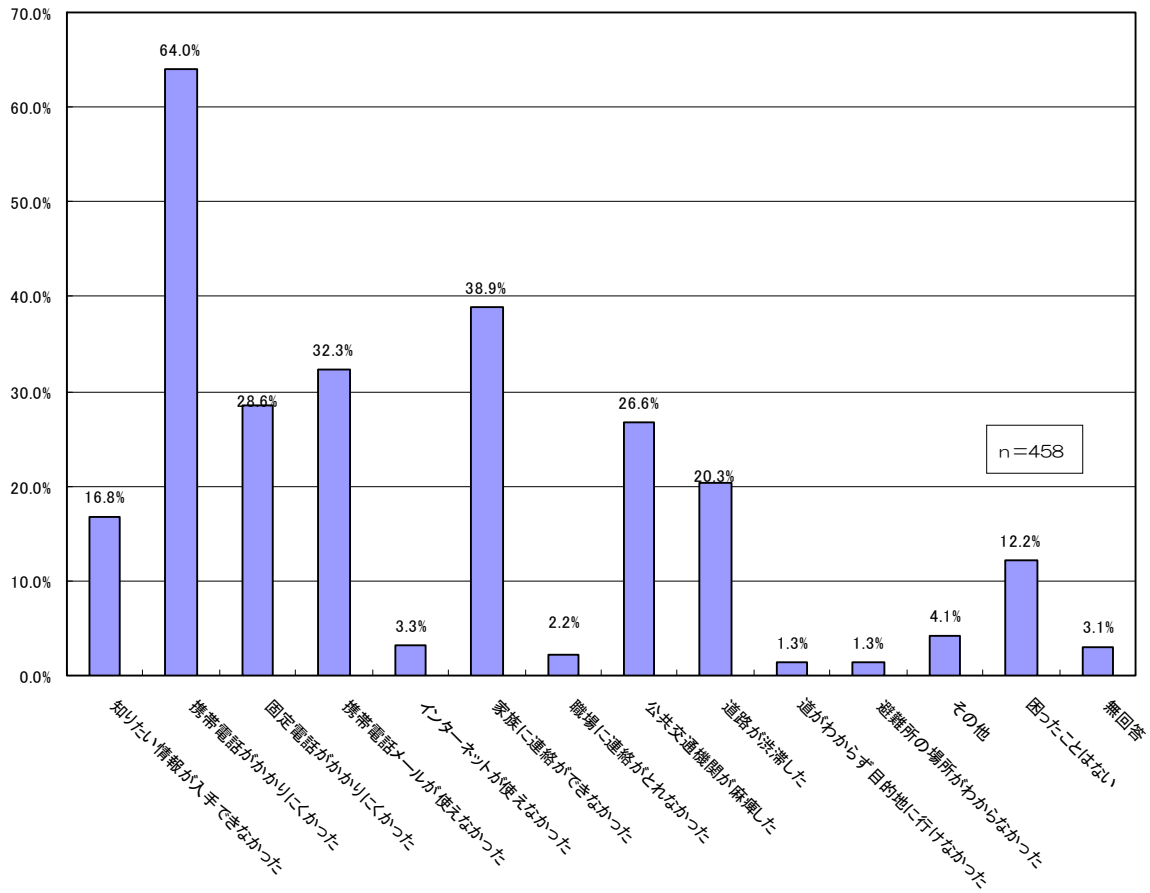


Q7 地震発生時、とっさに何をしましたか？



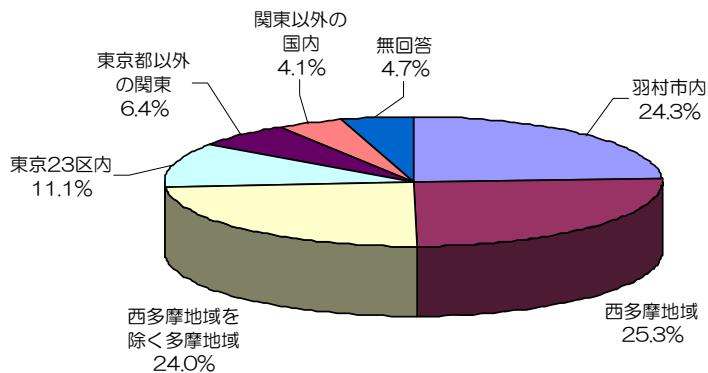
地震が発生した際のとっさの行動についてたずねたところ、「その場で様子を見た」という回答が39.5%で最も多く、次いで「テレビやラジオで地震情報を収集した」が37.6%、「安全な場所に移動し身の安全を守った」が31.4%と続いている。

Q8 東日本大震災当日、特に困ったことはどのようなことですか？



地震当日に特に困ったことについてたずねたところ、「携帯電話がかけにくかった」との回答が一番多く、64.0%となっており、次いで「家族に連絡ができなかった」が38.9%、「携帯電話メールが使えなかった」が32.3%、「固定電話がかけにくかった」が28.6%と続き、情報連絡手段の混乱について困った点として回答した方の割合が多い内容となっている。

Q9 地震発生時、あなたがいた場所はどこですか？



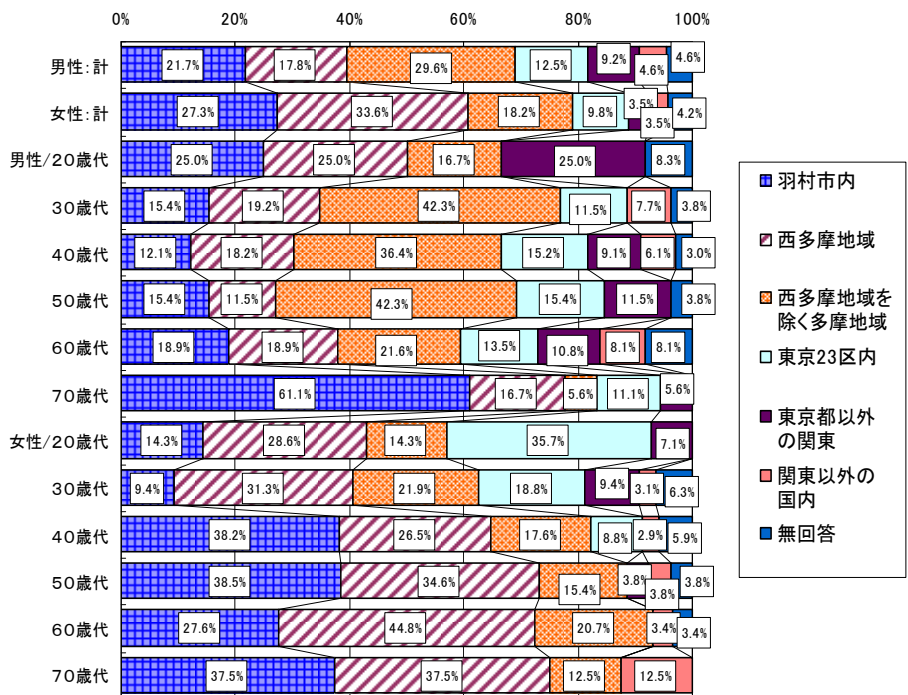
羽村市内	西多摩地域	西多摩地域を除く多摩地域	東京23区内	東京都以外の関東	関東以外の国内	無回答	合計
72	75	71	33	19	12	14	296

地震発生時に「自宅にいた」と回答した方以外に、「いた場所」についてたずねたところ、「(羽村市を除く)西多摩地域」が一番多く25.3%となり、次いで「羽村市内」が24.3%、「西多摩地域を除く多摩地域」が24.0%、「東京23区内」11.1%と続いている。市内を含む多摩地域内に73.6%の方がいたとの結果となっている。

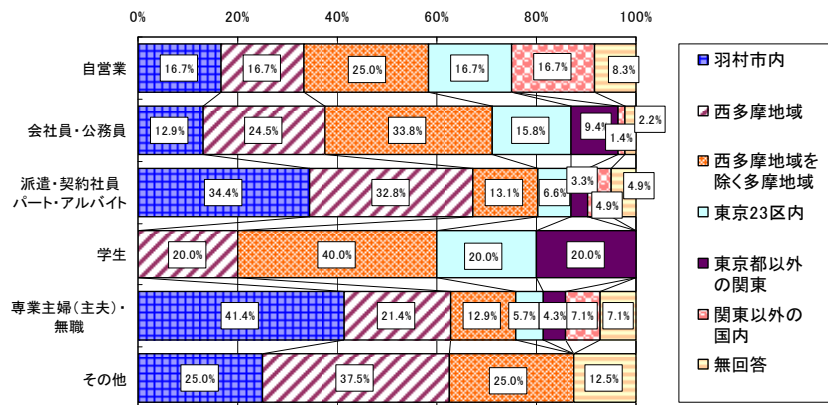
性別・年代別でみると、「市内」にいた方が男性は21.7%、女性は27.3%で、女性の方が5.6ポイント多い結果となっている。

特に、女性では40・50・70歳代で市内にいたと回答した方が一番多い割合となっている。

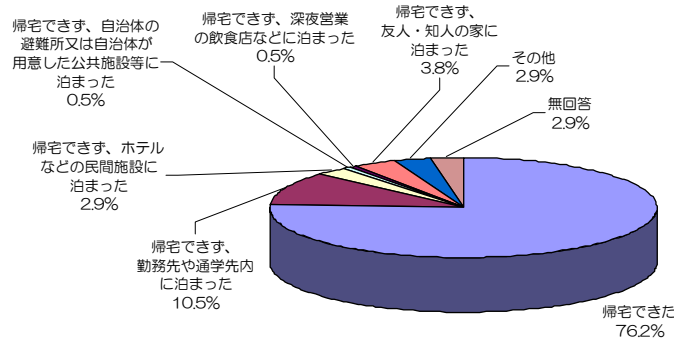
一方、男性においては70歳代で市内にいたと回答した方が61.1%と高い割合となっている。



次に、職業別での回答状況をみると、「派遣・契約社員、パートアルバイト」と「専業主婦（主夫）・無職」では、「市内」で被災された方が一番多くっており、特に「専業主婦（主夫）・無職」では 41.4%と高い割合になっている。



Q9-1 東日本大震災当日は帰宅できましたか？



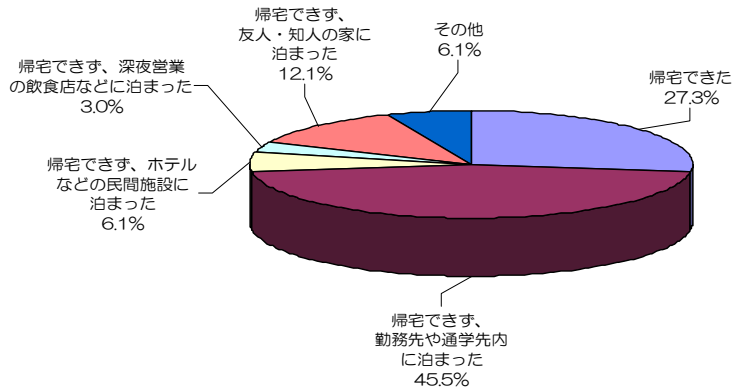
帰宅できた	帰宅できず、勤務先や通学先内に泊まった	帰宅できず、ホテルなどの民間施設に泊まった	帰宅できず、自治体の避難所又は自治体が用意した公共施設等に泊まった	帰宅できず、深夜営業の飲食店などに泊まった	帰宅できず、友人・知人の家に泊まった	その他	無回答	合計
160	22	6	1	1	8	6	6	210

東日本大震災当日に外出していた方で、Q9で「羽村市内」以外にいたと回答した方に、当日に帰宅ができたかをたずねたところ、76.2%の方が「帰宅できた」との回答であった。

一方、帰宅できなかった方では、「勤務先や通学先内に泊まった」方が10.5%、「友人・知人の家に泊まった」方が3.8%、「ホテルなどの民間施設に泊まった」方が2.9%と続いている。

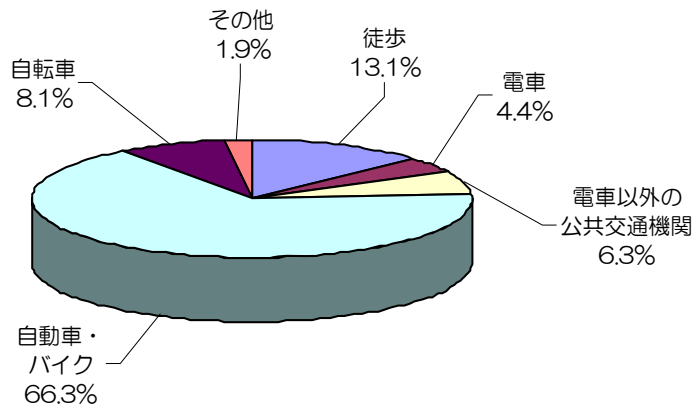
「その他」として具体的に記述された回答には、「駅で夜を明かした」、「ホテルは全て満室でロビーで過ごした」、「車中で過ごした」などの回答があった。

【Q9で東京23区内にいたと回答した方】



Q9-1での回答の内から、さらにQ9で「東京23区内にいた」と回答した方についての当日の帰宅状況を見ると、「帰宅できた」方は27.3%に減り、72.8%の方が帰宅困難者となっている。この内、「勤務先や通学先内に泊まった方」は45.5%となっている。

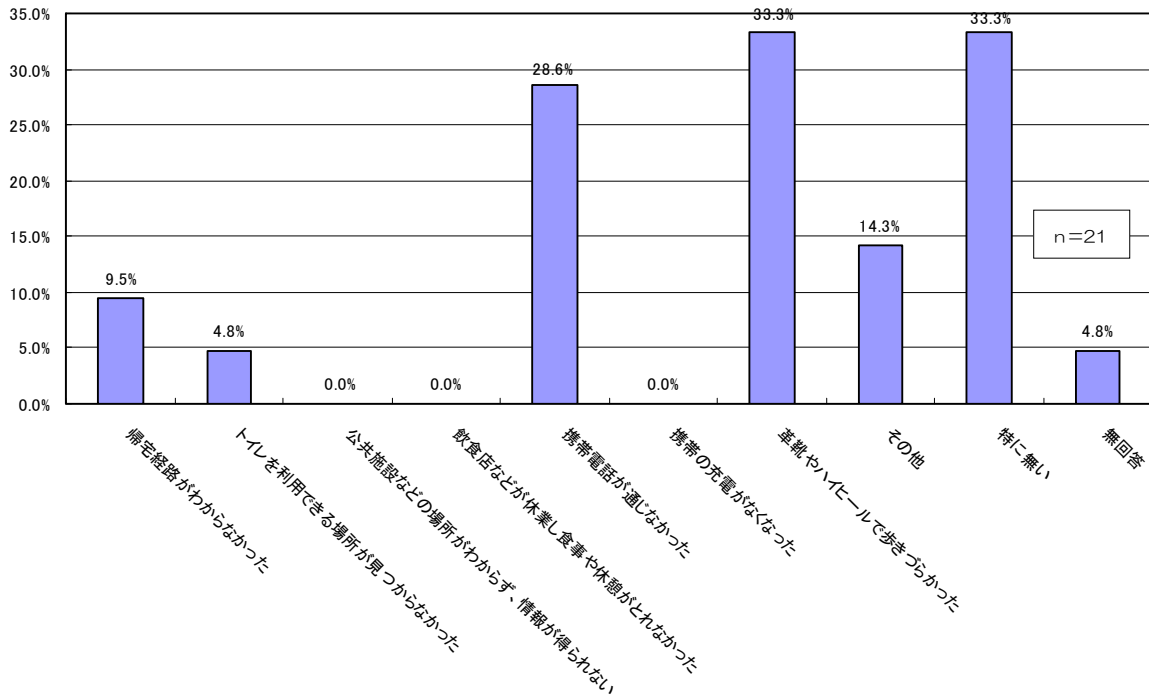
Q9-2 (帰宅できた方) 主にどのような手段で帰宅しましたか？



徒歩	電車	電車以外の公共交通機関	自動車・バイク	自転車	その他	合計
21	7	10	106	13	3	160

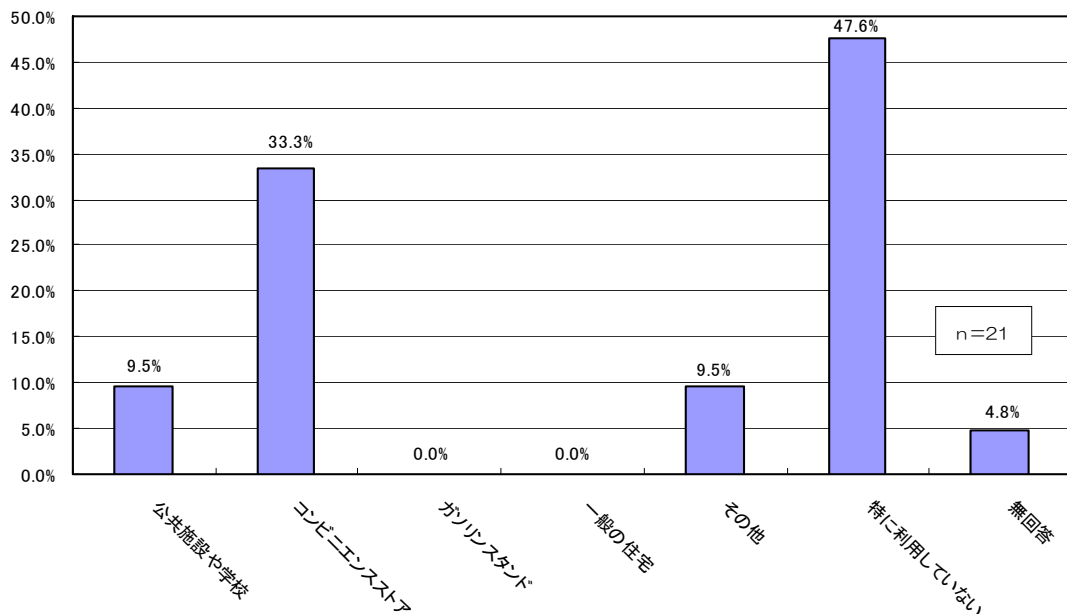
震災当日に帰宅できた方について、地震発生時にいた場所から主にどのような手段で帰宅したかをたずねたところ、「自動車・バイク」で帰宅した方が66.3%で最も多く、次いで「徒歩」が13.1%、自転車が8.1%となっている。

Q9-3 (徒歩で帰宅した方) 帰宅する際にどのような困難な状況がありましたか？



徒歩で帰宅した方に、帰宅する際にどのような困難な状況があったかをたずねたところ、「革靴やハイヒールで歩きづらかった」との回答が最も多く 33.3%、次いで「携帯電話が通じなかった」が 28.6%と続いている。一方、「(困難なことは) 特に無い」との回答も 33.3%であった。

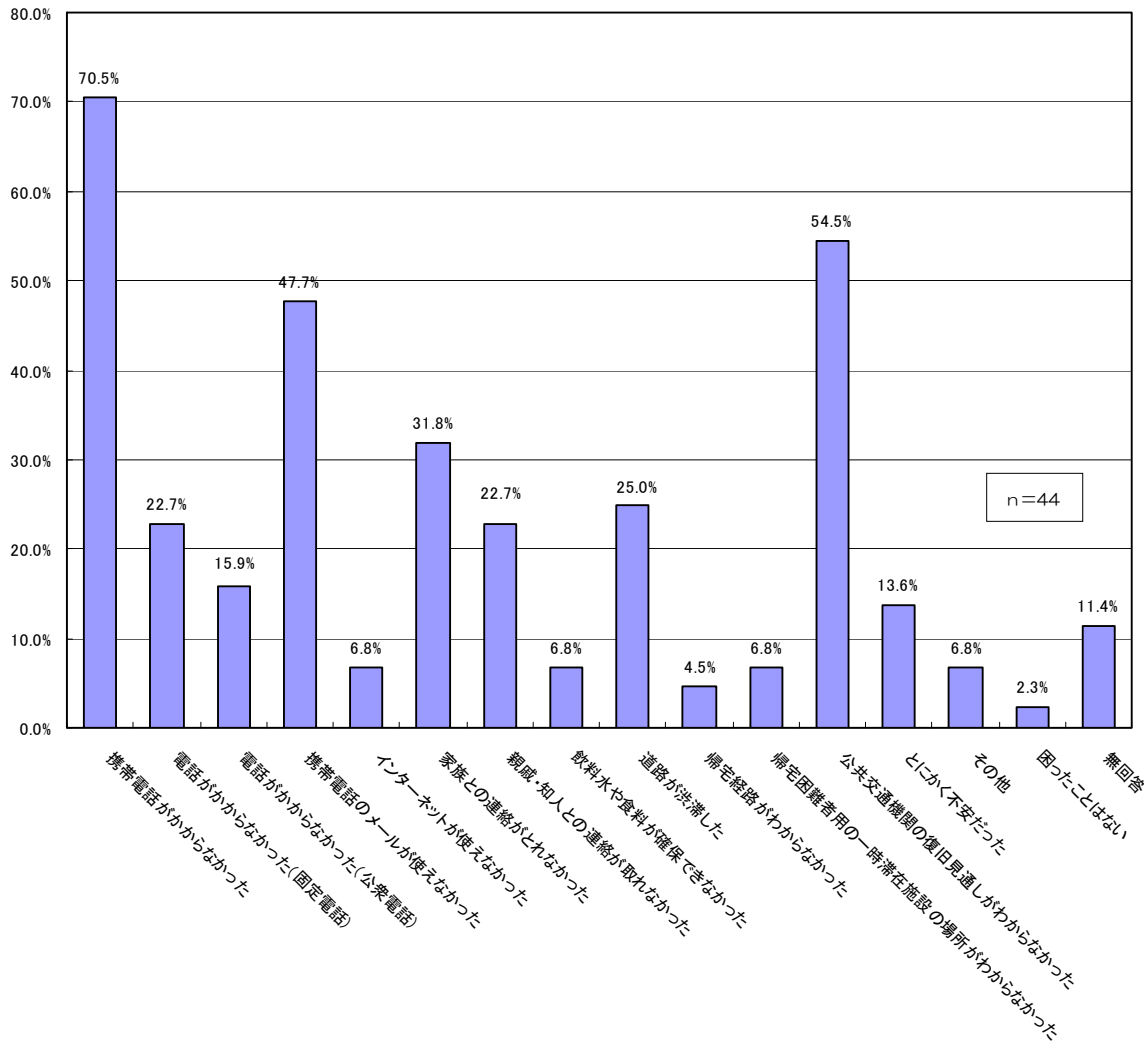
Q9-4 (徒歩で帰宅した方) 水やトイレを利用した施設はどこですか？



Q9-3 に続いて徒歩で帰宅した方に、帰宅する際に、水やトイレを利用した施設はどこかたずねたところ、「コンビニエンスストア」が最も多く 33.3%であった。

一方、「特に利用しなかった」も 47.6%であった。

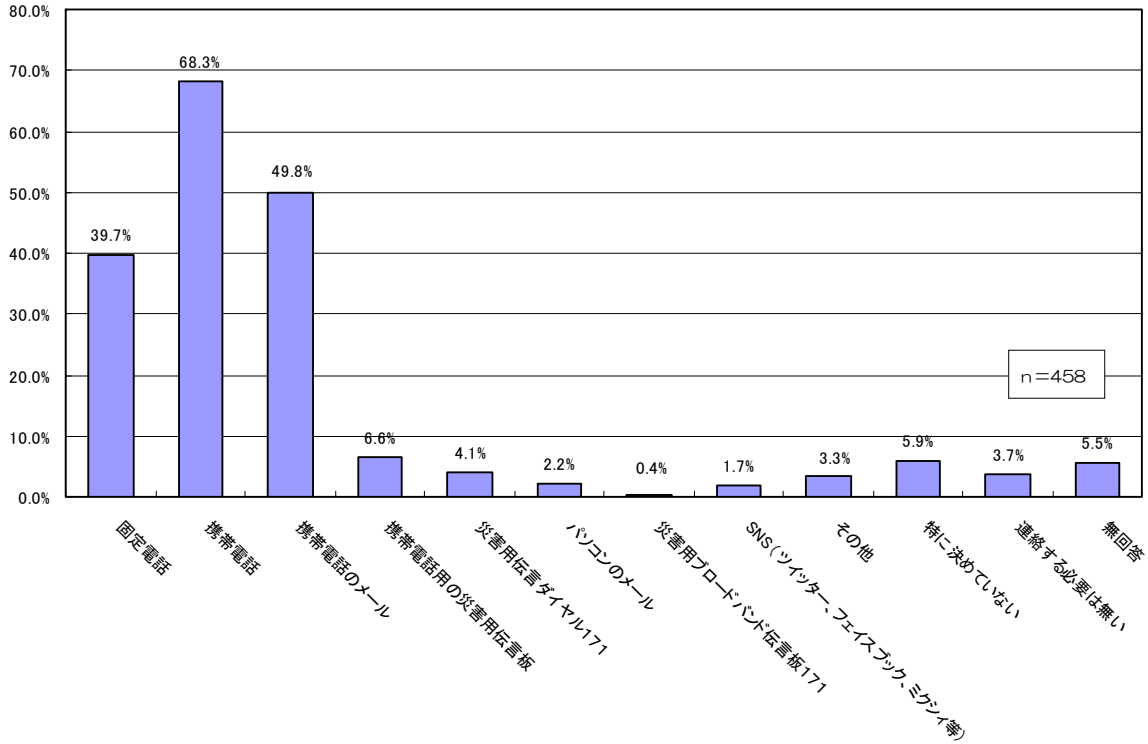
Q10 (帰宅できなかった方) 帰宅困難になった際、困ったことはどのようなことですか？



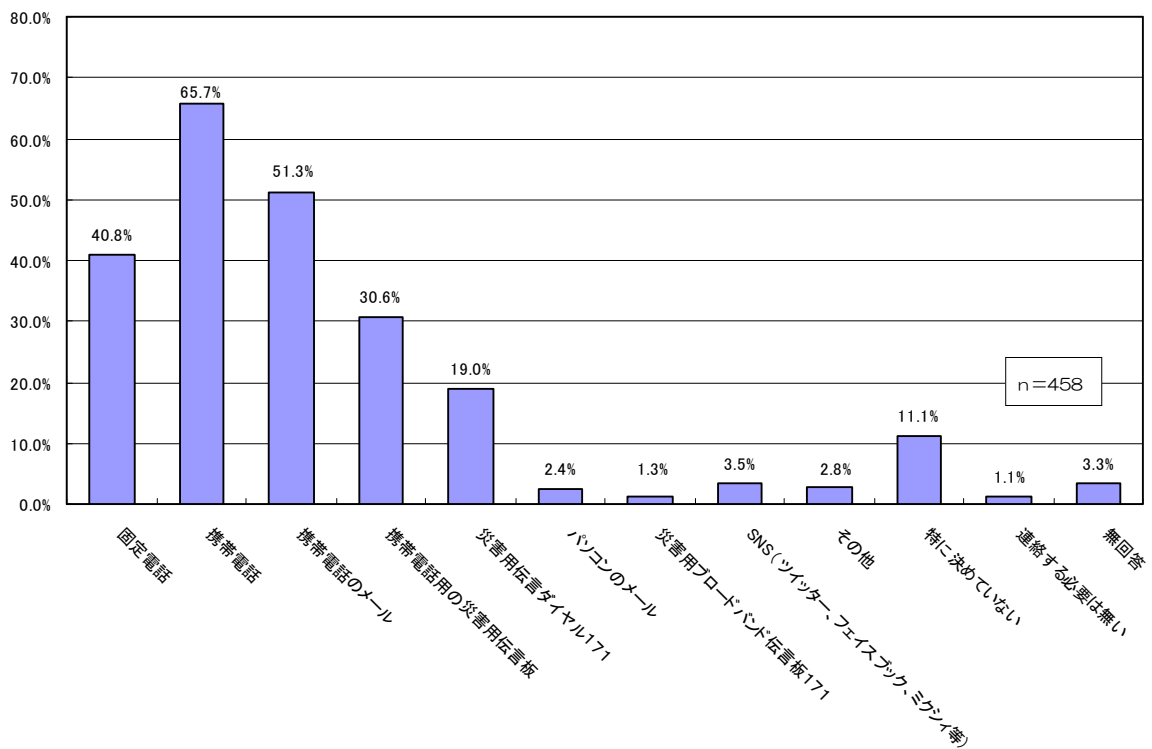
帰宅できなかった方に、帰宅困難になった際に困ったことについてたずねたところ、最も多かったのは「携帯電話がかからなかった」で 70.5%、次いで「公共交通機関の復旧見通しがわからなかった」が 54.5%、携帯電話のメールが使えなかった 47.7%と続いている。

Q11 東日本大震災発生時に家族とどのように連絡を取りましたか？ 今後災害発生時にはどのように連絡を取る予定ですか？

【震災発生時】



【震災発生後】



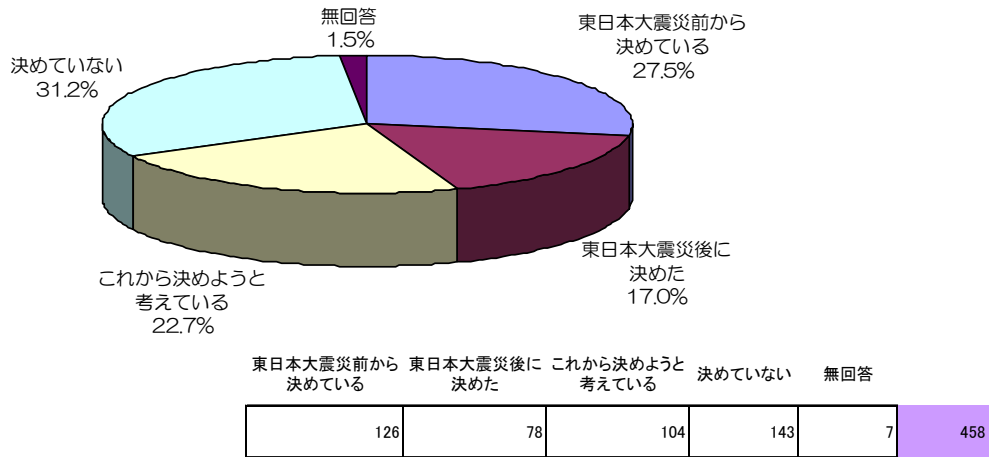
東日本大震災発生時および発生後に決めた家族との連絡方法についてたずねたところ、震災発生時の連絡方法は「携帯電話」が 68.3%と最も多く、次いで「携帯電話のメール」が 49.8%、「固定電話」が 39.7%と続いている。

震災発生後に決めた連絡方法は、「携帯電話」が震災時に比べ若干減ったものの65.7%と最も多く、次いで「携帯電話のメール」が51.3%、「固定電話」が40.8%と続いている。

東日本大震災発生時と発生後を比較して、発生後に決めた連絡方法で増えたものは「携帯電話用の災害用伝言板」が24.0ポイント増、「災害用伝言ダイヤル171」が14.9ポイント増、「特に決めていない」が5.2ポイント増となっている。

日ごろの防災対策について

Q12 震災時の家族との集合場所を決めていますか？

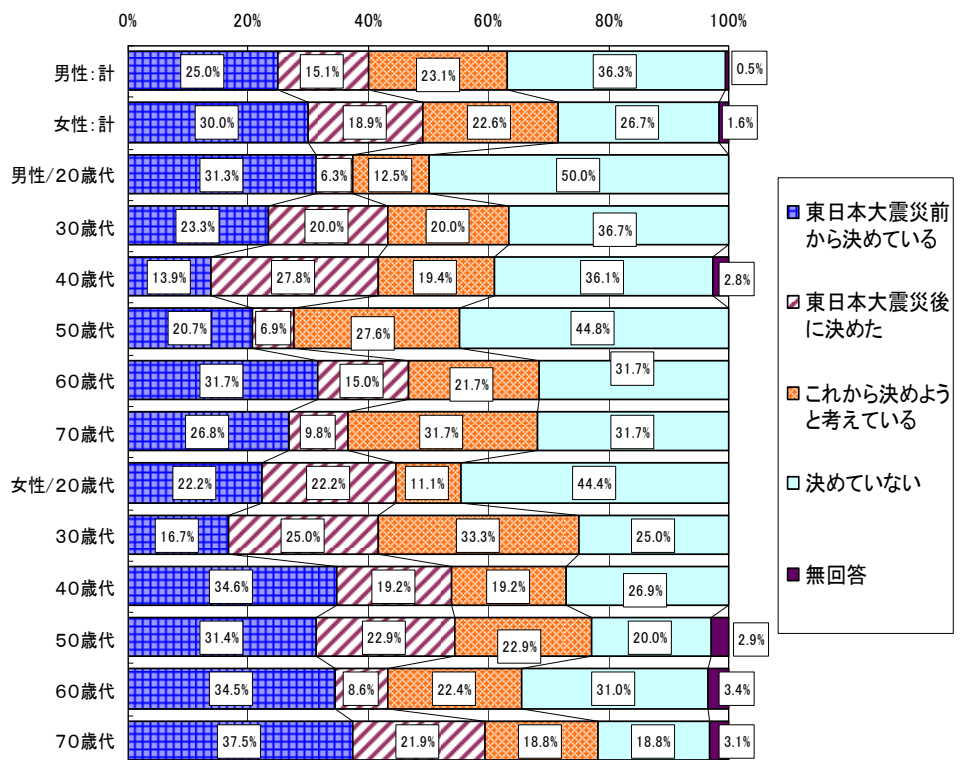


震災時の家族との連絡手段を決めているかすねたところ、「大震災前から決めている」(27.5%)と「大震災後に決めた」(17.0%)を合わせた『決まっている』は44.5%となっている。

一方、「これから決めようと考えている」(22.7%)と「決めていない」(31.2%)を合わせた『決まっていない』は53.9%となっており、『決まっていない』方が『決まっている』方を9.4ポイント上回っている。

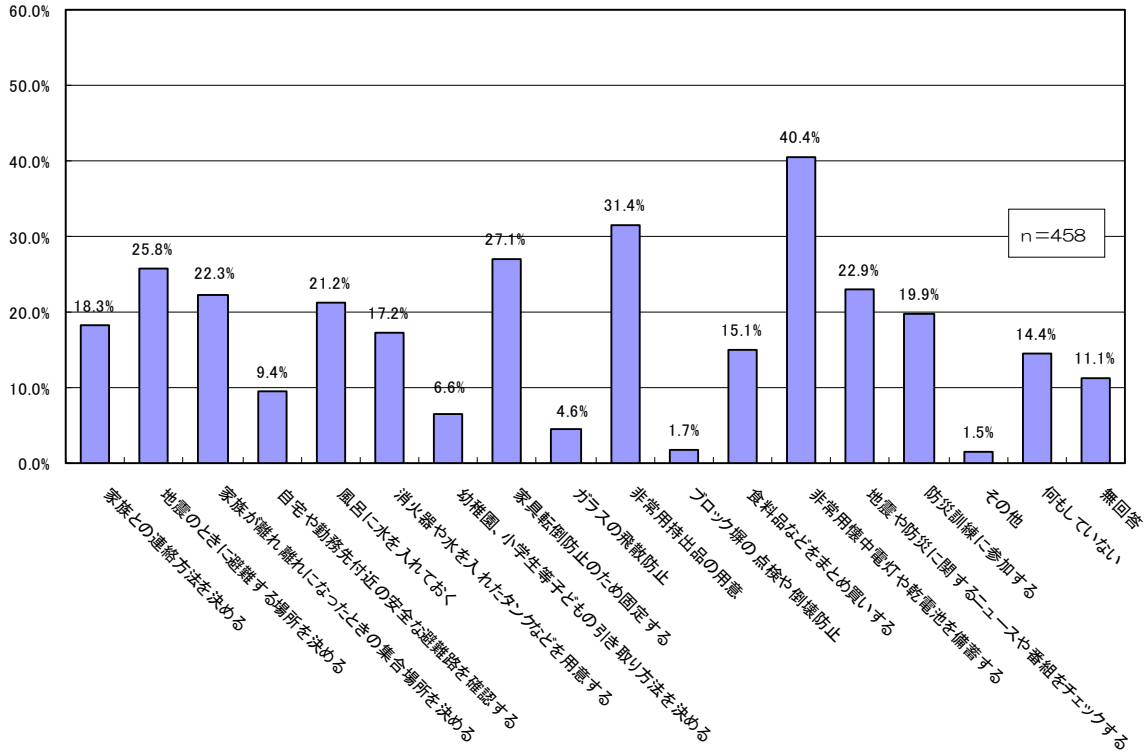
性別・年代別での回答状況をみると、「大震災前から決めている」と「大震災後に決めた」を合わせた『決まっている』と回答した割合は、男性で40.1%、女性で48.9%となっており、女性が8.8ポイント上回っている。

年代別では、「決めていない」との回答が、男女ともに20歳代で一番多くなっている。

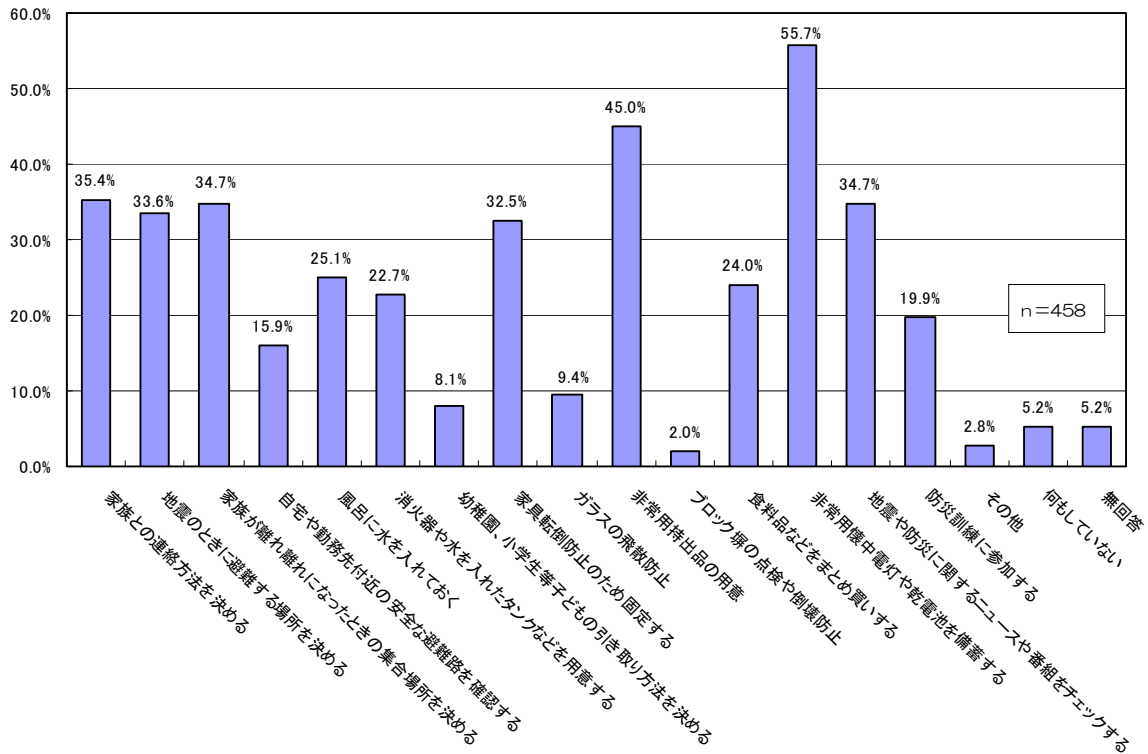


Q13 東日本大震災前から行っていた地震対策は何ですか？ 震災後、地震に備えて行った対策は何ですか？

【震災発生前】



【震災発生後】



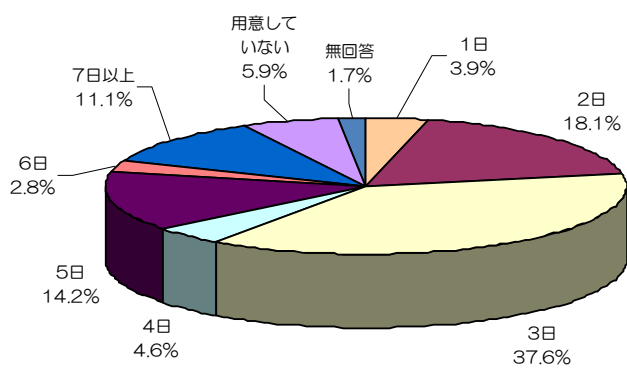
東日本大震災発生前および発生後にしている地震対策についてたずねたところ、震災前では「非常用懐中電灯や乾電池を備蓄する」が40.4%と最も多く、次いで「非常用持出し品の用意」が31.4%、「家具転倒防止のため固定する」が27.1%と続いている。

震災発生後に行ったものでは、「非常用懐中電灯や乾電池を備蓄する」が55.7%と最も高く、次いで「非常用持出し品の用意」が45.0%と続いている。

東日本大震災発生前と発生後を比較して、発生後にしている地震対策で増えたものは「家族との連絡方法を決める」が17.1ポイント増、「非常用懐中電灯や乾電池を備蓄する」が15.3ポイント増、「非常用持出品の用意」が13.6ポイント増となっている。

一方、何もしていないとの回答は9.2ポイント減少しており、震災を機に地震対策を強化した方が増えている状況がうかがえる。

Q14 自宅に通常買い置いている食料で災害時に何日程度暮らせるとおもいますか？

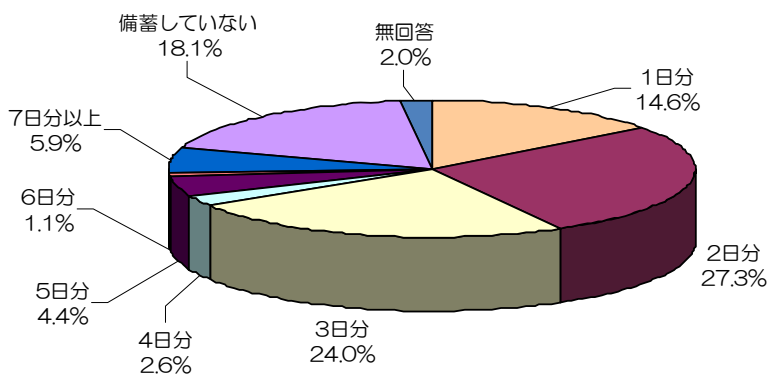


1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日以上	用意していない	無回答	合計
18	83	172	21	65	13	51	27	8	458

通常買い置きしている食料で災害時に暮らすことができる日数についてたずねたところ、「3日」程度暮らせる方が37.6%と最も多く、次いで「2日」が18.1%、「5日」が14.2%と続いている。

通常買い置いている食料で3日間を過ごせる家庭は70.3%となっている。

Q15 自宅で災害用に備蓄している食料（調理不要な食品）は何日分程度ですか？



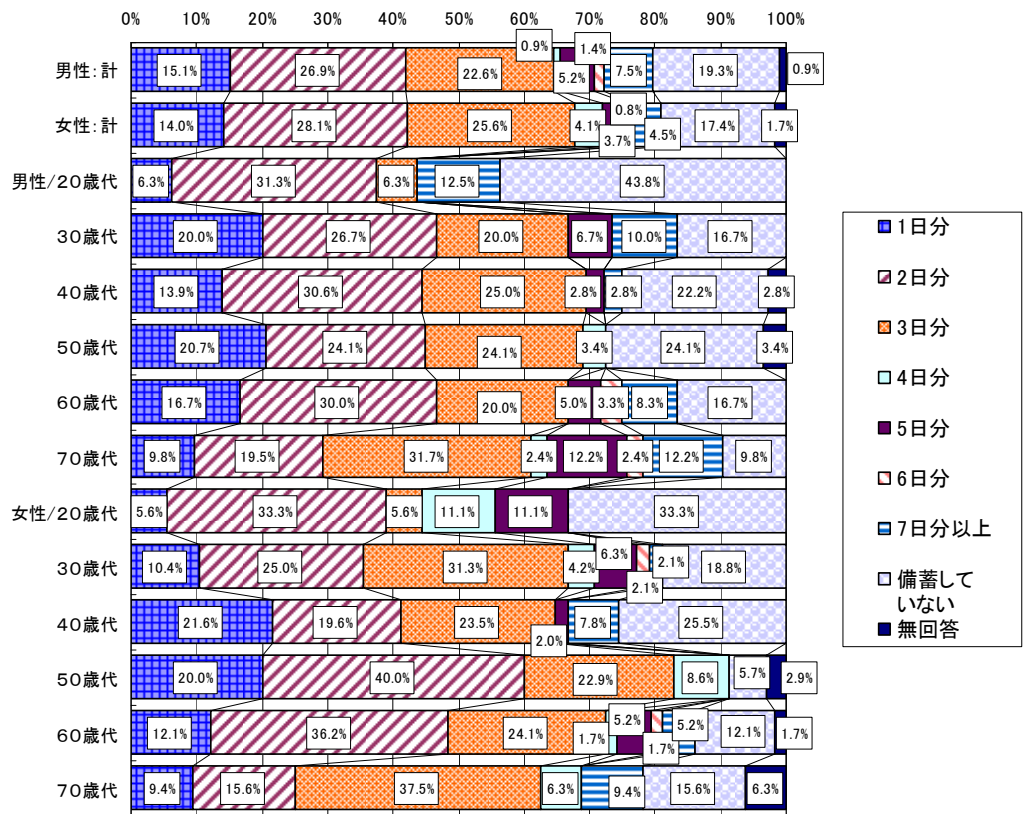
1日分	2日分	3日分	4日分	5日分	6日分	7日以上	備蓄していない	無回答	合計
67	125	110	12	20	5	27	83	9	458

災害に備えて自宅で備蓄している食料についてたずねたところ、「2日分」程度を備蓄している方が27.3%と最も多く、次いで「3日分」が24.0%、「1日分」が14.6%と続いている。災害用に備蓄している食料で3日間を過ごせる家庭は38.0%となっている。

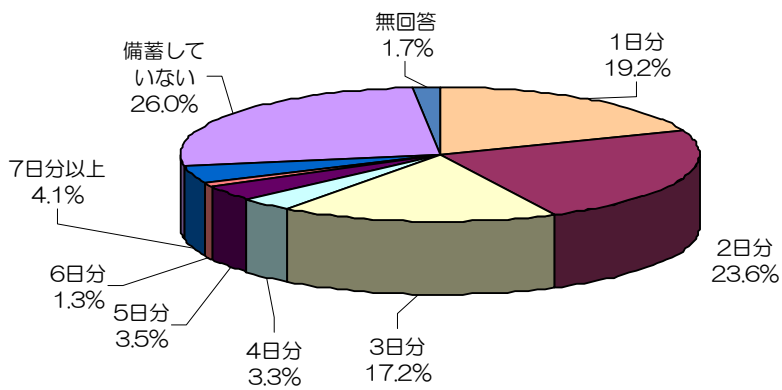
一方、備蓄をしていない方も18.1%と高い割合となっている。

性別・年代別での回答状況をみると、「備蓄していない」と回答した方は、男性、女性ともに20歳代で最も多い割合となっており、男性では43.8%、女性では33.3%の方が「備蓄していない」と回答している。

一方、3日以上以上の食料を備蓄していると回答した方は、男性、女性ともに70歳代で最も多い割合となっており、男性では60.9%、女性では53.2%となっている。



Q16 自宅で災害用に備蓄している「飲料水」は何日分程度ですか？



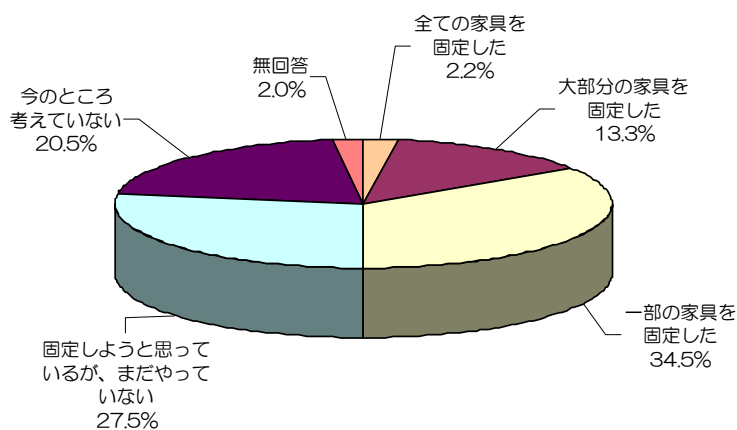
1日分	2日分	3日分	4日分	5日分	6日分	7日分以上	備蓄していない	無回答	合計
88	108	79	15	16	6	19	119	8	458

災害に備えて自宅で備蓄している「飲料水」についてたずねたところ、「2日分」程度を備蓄している方が23.6%と最も多く、次いで「1日分」が19.2%、「3日分」が17.2%と続いている。災害用に備蓄している飲料水で3日間を過ごせる家庭は29.4%となっている。

一方、備蓄をしていない方も26.0%と高い割合となっている。

家庭内の安全対策と住居の耐震化について

Q17 自宅の家具転倒防止のための対策を講じていますか？

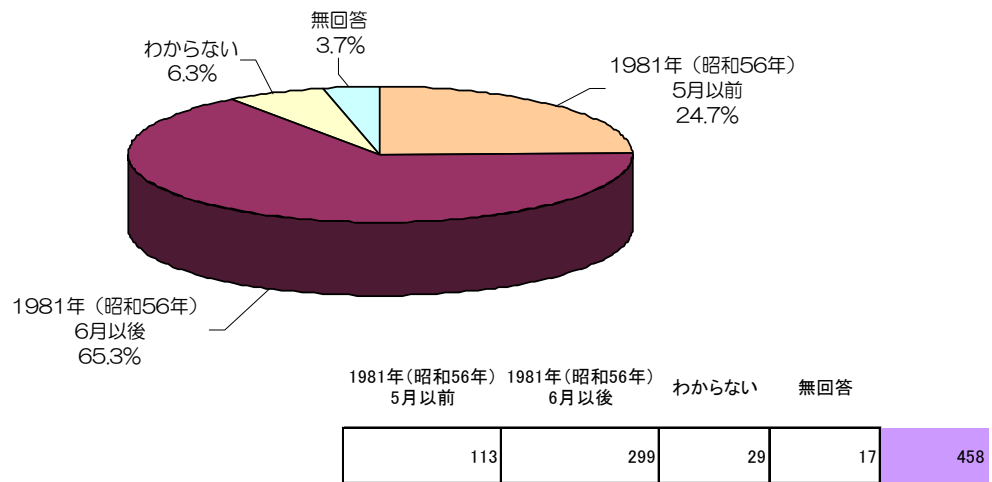


全ての家具を固定した	大部分の家具を固定した	一部の家具を固定した	固定しようとしているが、まだやっていない	今のところ考えていない	無回答	合計
10	61	158	126	94	9	458

自宅の家具転倒防止の状況についてたずねたところ、「全ての家具を固定した」(2.2%)と「大部分の家具を固定した」(13.3%)、「一部の家具を固定した」(34.5%)を合わせた『固定した』と回答した方は50.0%となっている。

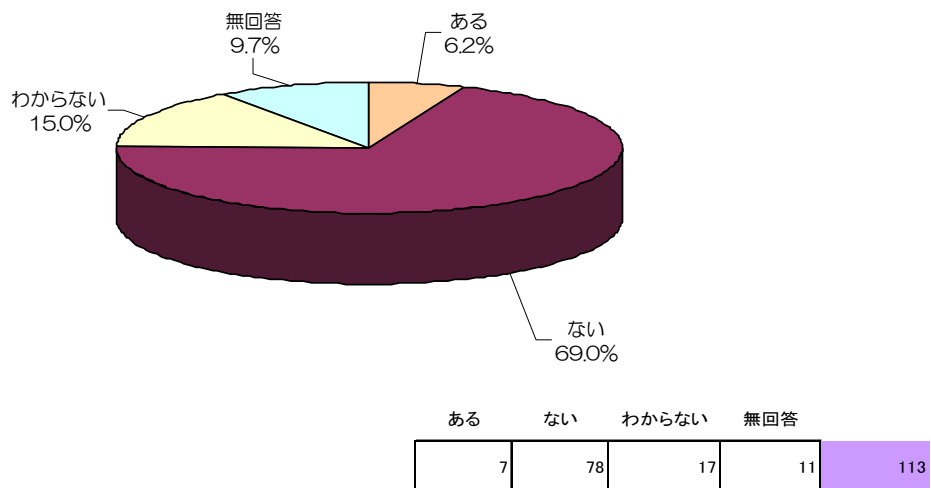
一方、「固定しようとしているが、まだやっていない」(27.5%)と「今のところ考えていない」(20.5%)を合わせた『固定していない』と回答した方は48.0%となっており、『固定した』方が『固定していない』方を2.0ポイント上回っている。

Q18 自宅は、いつ頃建てられたものですか？



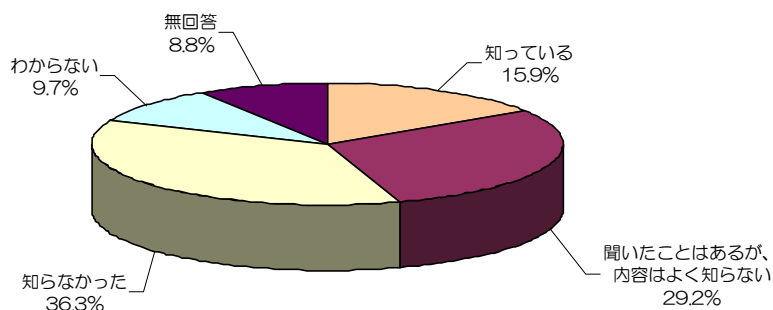
自宅の建築時期についてたずねたところ、「1981年（昭和56年）6月以後」が65.3%、「1981年（昭和56年）5月以前」が24.7%となっている。

Q19 （昭和56年5月以前に建てられた方）自宅の耐震診断をしたことがありますか？



「1981年（昭和56年）5月以前」に住宅を建てられた方に、耐震診断実施の有無についてたずねたところ、「ある」と回答した方が6.2%、「ない」と回答した方が69.0%であった。

Q20 (昭和56年5月以前に建てられた方) 市では「耐震診断」、「耐震改修」に対する補助制度を設けていることを知っていますか？

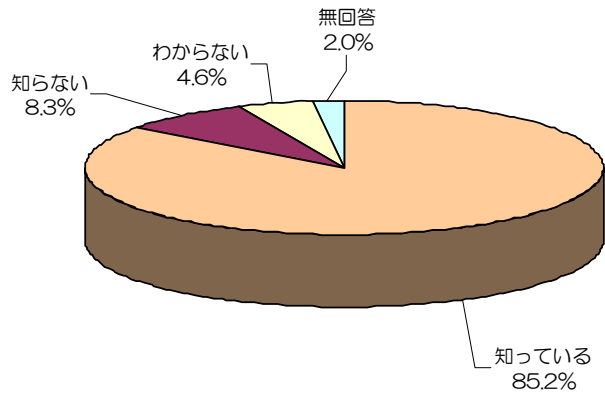


知っている	聞いたことはあるが、内容はよく知らない	知らなかった	わからない	無回答	合計
18	33	41	11	10	113

「1981年（昭和56年）5月以前」に住宅を建てられた方に、市の「耐震診断」及び「耐震改修」に対する補助制度の認知状況についてたずねたところ、「知らなかった」（36.3%）と「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」（29.2%）を合わせた『知らない』と回答した方が65.5%となっており、「知っている」（15.9%）を上回っている。

災害時の避難について

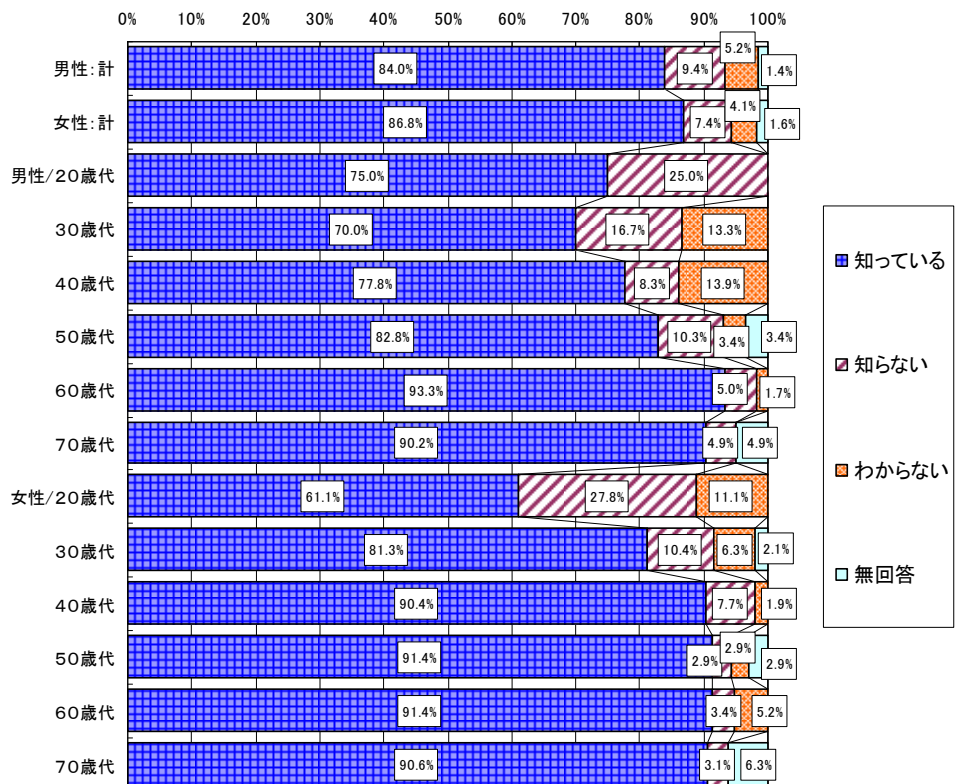
Q21 災害時に避難する場合、自分の住む地域の一時集合場所、避難場所、避難所を知っていますか？



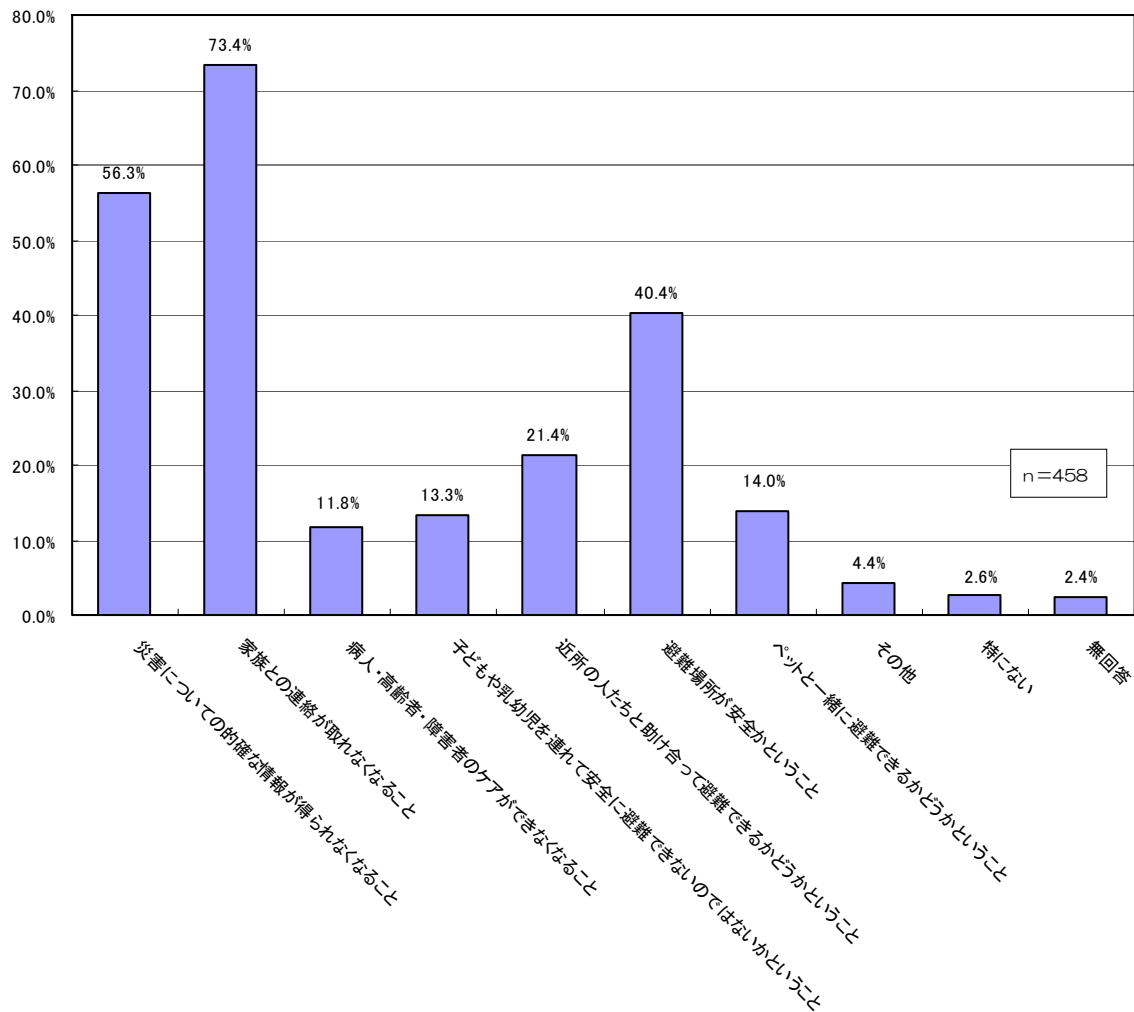
知っている	知らない	わからない	無回答	合計
390	38	21	9	458

災害時に避難する際の、地域の一時集合場所、避難場所、避難所の認知状況についてたずねたところ、「知っている」と回答した方が85.2%、「知らない」と回答した方が8.3%であった。

性別・年代別での回答状況をみると、男性では60歳代以上の方、女性では40歳代以上の方の90%以上が「知っている」と回答している。一方、「知らない」と回答した方の割合が最も多いのは、男女ともに20歳代で、男性では25.0%の方、女性では27.8%の方が「知らない」と回答している。



Q22 災害時に避難する場合、特に心配なことは何ですか？

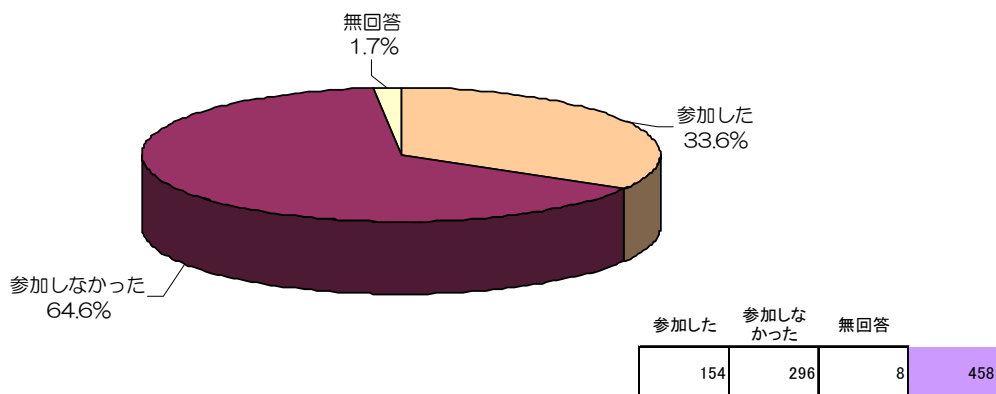


災害時に避難する際に、特に心配なことについてたずねたところ、「家族との連絡がとれなくなる」との回答が73.4%と最も多く、次いで、「災害についての的確な情報が得られなくなる」とが56.3%、「避難場所が安全かということ」が40.4%と続いている。

「その他」として具体的に記述された回答には、「避難所まで安全に行けるか」、「避難所が遠い」、「高齢者のみのため、避難がスムーズにできるか心配」、「避難する途中の石垣が崩れないか心配」など、避難途中の安全について心配する回答のほか、「普段服用している薬の確保」、「要酸素」、「(留守中の)空き巣やいたずらなどの防犯対策」、「避難所の寒さ対策」、「(避難所での)食料、トイレ、暖」などの回答があった。

防災訓練について

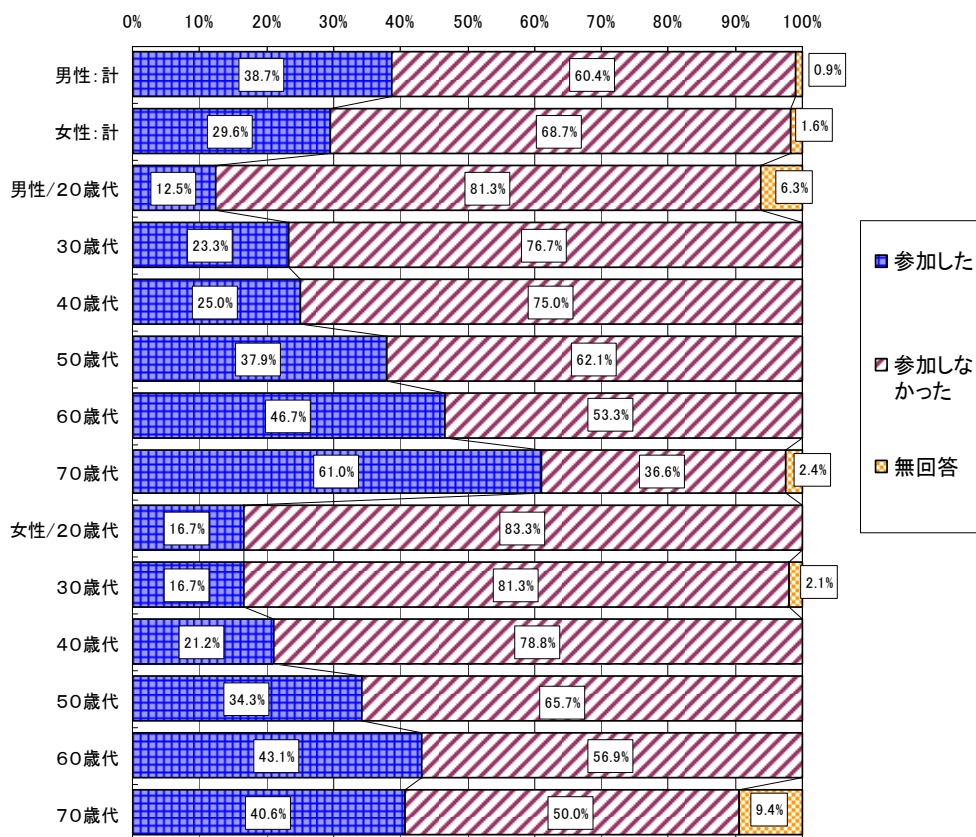
Q23 過去1年間に地域の防災訓練に参加したことがありますか？



過去1年間にける地域の防災訓練への参加状況についてたずねたところ、「参加した」と回答した方が33.6%、「参加しなかった」と回答した方が64.6%となった。

性別・年代別での回答状況をみると、「参加した」と回答した方は、男性で38.7%、女性で29.6%になっており、男性が9.1ポイント上回っている。

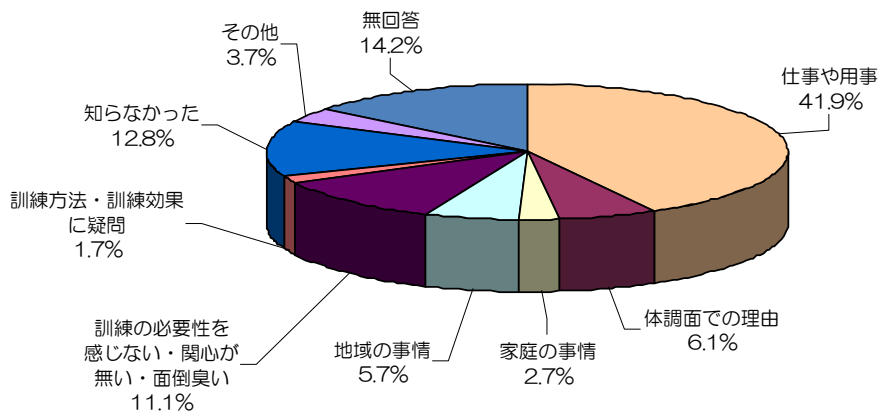
年代別にみると、男女ともに年代が上がるごとに参加した方の割合が高くなり、男性では、70歳代で61.0%の方が参加しており、女性では60歳代で最も多く、43.1%の方が参加している。



Q23-1 (参加しなかった方) 参加しなかった理由は何ですか？

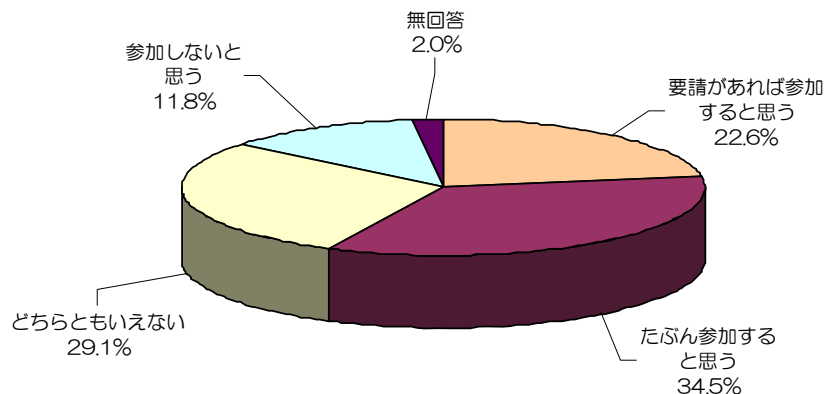
Q23で「参加しなかった」と回答した方に、参加しなかった理由を具体的にたずねた。

回答された理由を大別すると、「仕事や用事があった」、「体調面での理由」、「(子どもが小さいなど)家庭の事情による理由」、「(町内会に加入していないなど)地域の事情による理由」、「面倒だから」、「訓練の必要性を感じない」、「関心が無い」、「訓練方法・訓練効果に疑問」、「知らなかった」、「その他」などとなっており、それぞれの割合は次のグラフのとおりとなっている。



「仕事や用事」で参加しなかった方が 41.9%となっており、「訓練の必要性を感じない・関心が無い・面倒臭い」という理由で参加しなかった方も 11.1%となっている。

Q23-2 (参加しなかった方) 地域で参加を要請された場合は参加すると思いますか？

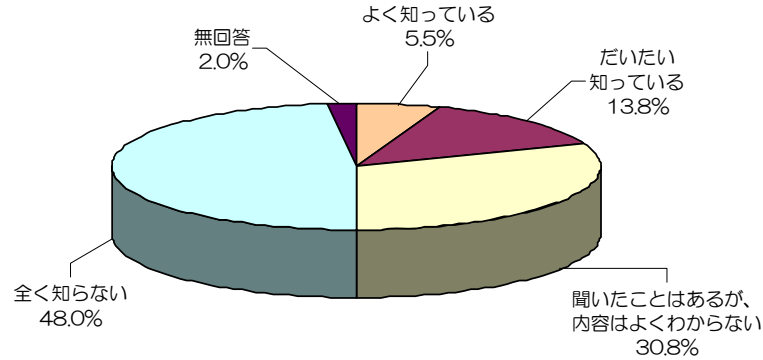


続いて、参加しなかった方に、地域で参加を要請された場合は参加すると思うかをたずねたところ、

「要請があれば参加すると思う」と「たぶん参加すると思う」を合わせた『参加する』が 57.1%となった。

災害時要援護者対策について

Q24 市が実施している災害時要援護者制度について知っていますか？

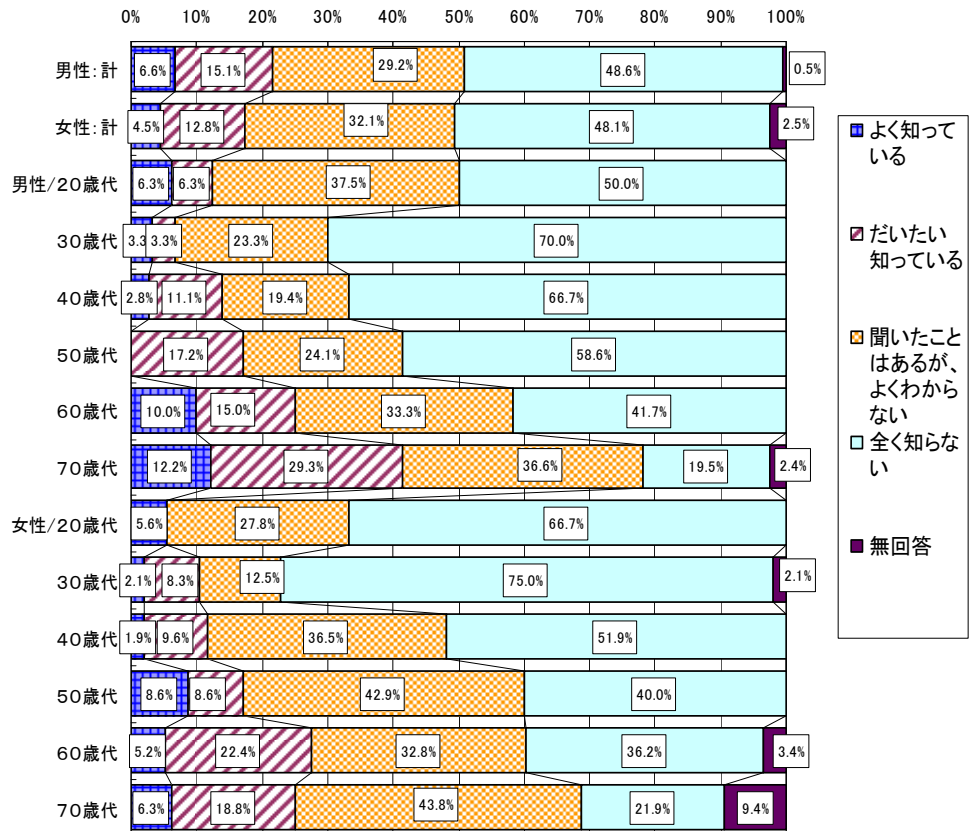


よく知っている	だいたい知っている	聞いたことはあるが、内容はよくわからない	全く知らない	無回答	合計
25	63	141	220	9	458

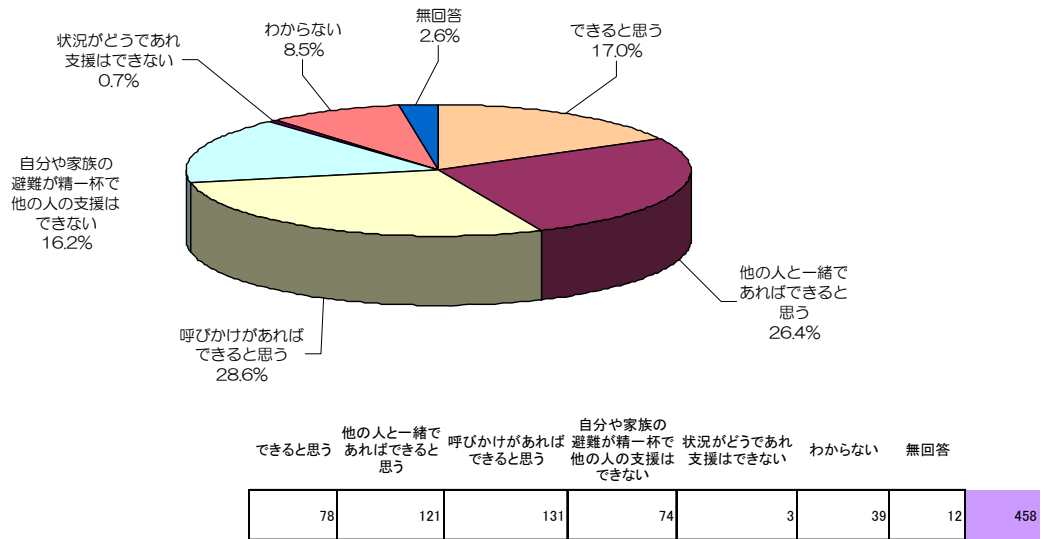
市が実施している災害時要援護者制度についての認知状況についてたずねたところ、「よく知っている」(5.5%)と「だいたい知っている」(13.8%)を合わせた『知っている』は19.3%であった。「全く知らない」との回答が最も多く、48.0%であった。

性別・年代別での回答状況をみると、制度の対象となる60歳以上での認知状況が高く、男性の70歳代では41.5%が『知っている』と回答し、女性では60歳代で27.6%が『知っている』と回答している。

一方、「よくわからない」と「全く知らない」を合わせた『知らない』については、男性では30歳代で93.3%、女性では20歳代で94.5%と高い割合となっている。



Q25 災害発生時に避難する際、近所に高齢者や障害者がいた場合に、誘導しながら避難することができますか？

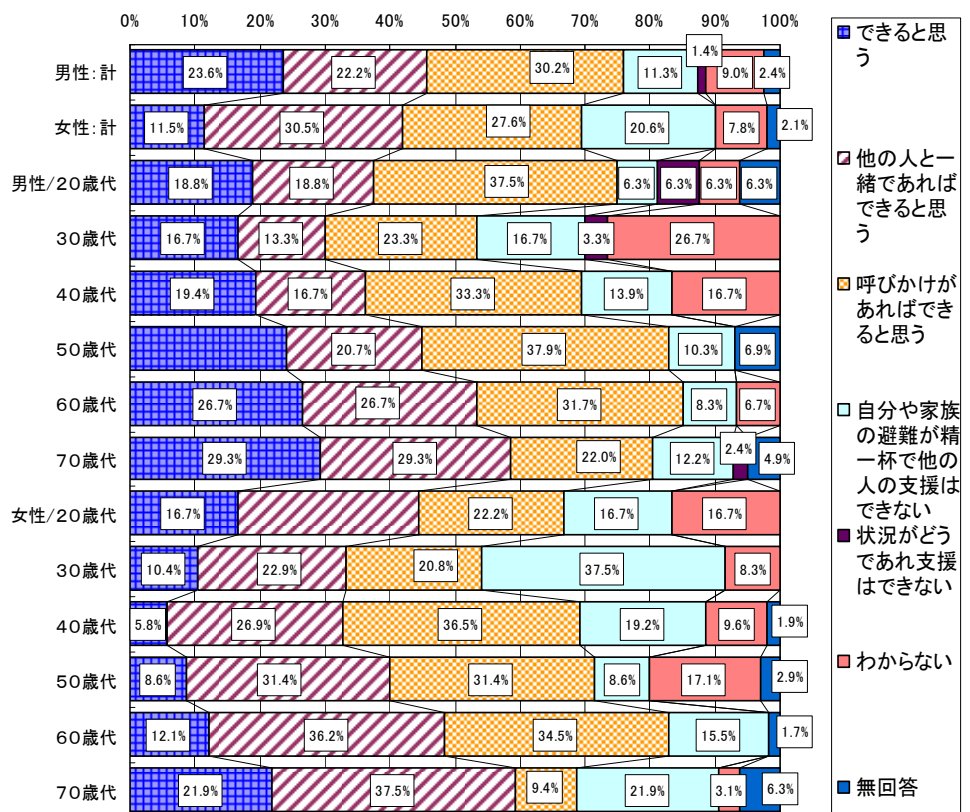


高齢者や障害者を誘導しながらの避難行動についてたずねたところ、「呼びかけがあればできると思う」が28.6%と最も多く、次いで、「他の人と一緒にあればできると思う」が26.4%、「できると思う」が17.0%、「自分や家族の避難が精一杯で他の人の支援はできない」が16.2%と続いている。

「できると思う」(17.0%)、「他の人と一緒にあればできると思う」(26.4%)、「呼びかけがあればできると思う」(28.6%)を合わせた『できると思う』は72.0%であり、「自分や家族で精一杯で他の人の支援はできない」(16.2%)と「状況がどうであれ支援はできない」(0.7%)を合わせた『できない』は16.9%であり、『できると思う』が55.1ポイント上回っている。

性別・年代別での回答状況をみると、『できると思う』との回答は男女ともに60歳代で最も多く、男性60歳代で85.1%、女性60歳代で82.8%となっている。

一方、『できない』との回答は男女ともに30歳代で最も多く、男性で20.0%、女性で37.5%となっている。



回答者の考えについて

Q26 日ごろの防災に関する考えについて記入してください。

防災に関する意見や要望について自由に記入していただいたところ、170人から延べ221件の回答が寄せられた。ここでは記入された回答を大別し、各項目別に代表的・特徴的なものを抜粋して示す。なお、回答文章は原文を基本しているが、固有名詞が含まれている場合や、長文の場合は、一部省略する。一つの回答が複数の内容に渡る場合は複数回答として、それぞれの項目へ分類した。

内 容 分 類	件 数
情報提供について	22
(個人を含む) 防災施策全般について	58
地域・市民(個人)の防災意識、行動について	64
子ども・高齢者・障害者の防災について	22
備蓄・避難場所・避難所等について	12
ライフライン・道路・市街地の防災・耐震について	12
家具転倒防止や建物の耐震について	5
防災訓練について	12
ペットの防災対策について	3
その他	11

主な意見

情報提供について

- ▶ 災害時に一番必要なのは情報だと思います。情報をいただければ現状に対応することも出来るし、希望を持って耐えることが出来ます。(どこへ行けば知りたいことを教えていただけるかを、ハッキリさせておいていただけるとありがたいです。)
- ▶ 防災無線(市内に流れる迷い人や火災のお知らせ)が、聞き取りにくいときがあります。“いざ”という時、防災無線が重要になるかと思います。(高齢者など、携帯電話やスマートフォンなどから情報を得ることは、考えにくいと思うのですが…)
- ▶ 防災無線は女性の声をお願いします。

- ▶ 防災無線の音量をもっと大きくして、車の通行量が激しい場所でも聞きとれるようにしてほしいです。
- ▶ メールで配信されている、市の防災と防犯情報は役にたっている。
- ▶ 短波放送が聴きにくく、こまる事がある。防災の時は一番やくにたつので、少し心配している。
- ▶ 3.11 の震災が発生した時の政府・マスコミの発表は、まったく信用できないものでした。少なくとも羽村市は住民の立場に立って事実を正確に知らせてもらいたい。
- ▶ 地震発生の際、テレビ等で近隣市、町、村の地震情報がテロップで流れますが、羽村市は抜けている事が多いですが地震計測器は、正常に機能していますか？心配です。
- ▶ 緊急地震速報が作動する場合と、しない場合があったり、その携帯により、その機能が全く働かない等があるので、そういった所の改善がどのようになっているのか。
- ▶ 防災無線聞きやすくしてほしい。防災無線の内容、電話で聞き直しできるとのサービス始まったが、火事の際かけてみたが聞けなかった。

(個人を含む) 防災施策全般

- ▶ 基本は、各家庭で災害時の準備をする事だと思いますが、各家庭で出来ることは限度があるので、大規模な災害を想定した場合は、食・住に関するケアは、都又は市が率先して確保する様に準備を進めて欲しいと思います。
- ▶ 先ずは自分の身、同時に同居の妻の身の安全を。自宅内の家具類を出来る範囲で固定や倒れ防止材を利用して手当て。不用品の廃棄も。自火は絶対に出さない常日頃の習慣づけ。三日分を目安とした、水、食料の備えの維持。家内での家具や食器類の内、ガラス、瀬戸物、あるいは重いもの等、心がけて低いところに置くよう、高い棚やタンスの上等に物を積まない。
- ▶ でかけるときは、2回安全点検をする(火災)。身近な所に懐中電灯をおく。
- ▶ 東日本大震災の時に市の施設にいたが、放送も無ければ誘導にも来なかった。役所職員の緊急時の指導はどうなっているのか不安。
- ▶ 想定される首都直下型、立川断層発生時の羽村市における被害規模想定情報提供や対応した対策を、羽村市にお願いしたい。
- ▶ 被災者の方にもアンケートをお願いする(経験者から聞いた方が説得力がある)。
- ▶ 羽村の防災マップを作成して、各家庭に配布して下さい。
- ▶ 例えば、市では、どれだけ防災の準備や食料品の備蓄ができていますか？(水だけ?) 学校の校庭の液状化の心配はないのか(特に武蔵野小、三中) ゆとろぎ他の公共施設が利用できると思うが、何人くらい大丈夫なのか(それ以前に、利用可なのか) 公表していると思いますが、あまり情報として伝わっていない気がする。(あと、都心みたいにお店等の協力があるのか?) 復旧は、どのくらいを見ているのか?この時税金等は、地震にたいして利用してくれるのか?
- ▶ 立川断層が、どのあたりで、羽村の地盤が、どのような感じなのか情報を知りたい。
- ▶ 自宅前に消火栓があるが、その使い方について教えて欲しい。
- ▶ 中越地震で実家が全壊。田、畑も何もなくなり、村に住む事が出来なくなった経験から、防災に対して災害への備えも強く考える様になりました。田舎は近所との助け合いが出来ましたが、高

齢者や一人住まいの方との避難方法が訓練した事がなく心配です。そして町内は、世帯数が増えたのに避難場所がせまく学校だけではと心配です。(私は山古志村の出身です。)

- ▶ 日中は主婦や老人・子供が多いです。消火栓がかたくてあけにくいので、1年に1度位は開けて点検したら良いと思います。又、町会のどこに消火栓があるのか自分の班だけでも知っておくべきです。AEDも大事ですが、まずは皆が安全な場所に避難できる事が大切かと思いました。
- ▶ 老々家庭にはエプロンとカーテンの防災品の支給を願いたい。
- ▶ 非常時に、消防及び救急車が公園内に入れる様にしてもらいたい。(道路を封鎖しないで防災活動が出来る様に)
- ▶ 地震の際、玄関ドアを開けに行く。2階に靴の用意がある。ベットに懐中電燈・ラジオの用意がある。室内にいると防災無線がよく聞こえないので、配信メールをとっています。
- ▶ 羽村市を含む都内は流通の要である為、災害が発生しても食料等の供給はある程度耐えれば、問題ないように思う。家族のルール等はしっかり決めておきたい。
- ▶ 震災は、大変怖いと思っています。地震の際は、必ず火を止めて入り口のドアを開けています。又、大切な品物はまとめてバックに入れてある。震度6強になると古いマンションなので、倒壊の恐れがあり心配です。とりあえず生命が助かれば、なんとかなると思っています。
- ▶ 線路より反対側に行っていた時、災害が起きた場合、列車はその場で停車するが、踏切は閉ってしまうと上がらないので、待っている車の為にすぐに上げてほしいと思います。
- ▶ 私の考える最悪のシナリオは富士山の噴火、次に立川断層を震源とする直下地震、東日本大震災後、空白域になっている茨城・千葉県を震源とする大地震等が考えられますが、これらは自分がその時いる場所によってだいぶ左右されます。食料の備蓄については、どんな火災になっても冷蔵庫の中には1日分位のもは残っている筈で、あまり心配はしていない。又、一日もすれば救援物質は届くと思う。家の外の物置にキャンプ道具一式を用意してあり、生活できる様にはしてあります。
- ▶ 引っ越してきたため、近い避難場所などわからないので、パンフレットなどがあると欲しい。(ドアノブにかけておくなどするとうれしい。電気・ガスと同じ様に)
- ▶ 地震が発生して生き残った場合、一番必要なのは体力だと考える。体力作りを毎日行っている。(10km以上歩く)遠くにいた場合、歩いて帰る。「カチ歩き大会」新宿→青梅間にも参加して体力に自信をつける様にしている。

地域・市民(個人)の防災意識、行動について

- ▶ 3.11の大災害で見ると、実際どこに逃げればよいか考えるという余裕はないのではないだろうか。一瞬で生死がきまる。生きていて、さあ、どうしようとなるのではないか。一応家族と話し合いはしているが臨機応変マニュアル通りにはいかないと思う。
- ▶ 頭では、わかっているも日々の忙しさにおわれて防災の事は、あとまわしにしている気がします。3.11以降少しずつ考えは、かわってきましたが、それでもまだ甘くみている部分があるなど、アンケートを書かせてもらっているときに痛感しました。
- ▶ いつも考えているが、いつどうなるかわからない。

- ▶ 防災対策をしようと思っているが、予算の関係上なかなか進まない。
- ▶ 余震の回数も少なくなり、危機感が薄れてきています。防災の日などをきっかけに、もう一度防災について考えてみたいです。
- ▶ 防災については、やりすぎ、心配しすぎはないと思います。何もなくて良かった、とムダになる位でも良いと思います。
- ▶ 普段から冷静に行動する様に心がけています。防災用品がまだ全然足りないので、これからも少しずつそろえていこうと思います。
- ▶ 現実に大災害にあっていないので、多少の心配はあるが行動に移せない。
- ▶ 隣近所の付き合いがまったくないため、いざ地震がきたらどうなるのか不安。
- ▶ この手紙を受け取った日、地震がありました。「防災」について、もう一歩ふみこんで考えていこうと思いました。
- ▶ 「遠くの親戚より近くの他人」という諺があるように、災害のときは隣近所の連絡が大切だと思う。マンション住まいで、あまり隣近所のつきあいが無いのが心配。ただ災害発生時に羽村にいるとは限らず、都心にいたら、帰宅困難者になってしまうと思う。羽村に来て、防災訓練や備蓄もあって安心だが、実際に災害がおそった場合に、冷静に行動できるとはとても思えない。
- ▶ 自分の身は自分で守る、という信念で、いざと言うときは自分の力で避難出来るようにしたいと考えている。(高齢のため特に)
- ▶ 天命にまかせる。
- ▶ いつ災害がおきるか常に自覚しております。外出する際は、火のもと点検を特に再点検してから。
- ▶ 東日本大震災発生から1年以上が過ぎ、防災に関する意識が低下してしまっていると感じます。災害が発生してしまっても、なるようにしかならないと思っています。防災グッズも購入が必要かな…と思いつつ、現に用意していない状況です。
- ▶ 震災後、非常食や長期保存の水、簡易トイレなど、生活に最低限必要なものをそろえたが、町内会未加入のため近所の人ともあまりコミュニケーションをとることも少ない。町内会は悪いとは思ってないが、仕事が忙しいのに行事に参加するために仕事を休めないし(サービス業で土日祝は仕事)役員など負担が多いため加入せずにいる。もう少し町内会のありかたや若い世代に負担にならない様な工夫はできないのかと思う。そうすれば震災時、もっと違った形で協力体制ができるのではないかと考える。
- ▶ 災害の備え(トイレ・食品・ロウソク・水)はしたのですが、他の備えは怠っていました。もっと真剣に取り組みたいと考えてます。
- ▶ 特に考えてないが、地域の人たちと協力したい。
- ▶ 高齢世帯ですので、非常時の避難も安全にしたいし、備蓄食料の点検等も、常時心がけていたいと思っています。が、いざ大地震が起こったら、どういう状況になるか全く見当のつかない日々です。まだまだ甘い考えていると、反省しています。
- ▶ 特に考えていない。起こるだろうと言われていたが、その時だけの為に備蓄をしようとは思わない。しかし連絡等は、滞りなく出来る様にしてほしい。
- ▶ いざという時に、隣近所で助け合いができるかどうか不安です。日頃から町内会や地域行事に積極的に参加し、信頼関係を深めておくことが大事だと思います。

- ▶ 震源地、栗原市の出身です。この前の地震の前にも何度かあっています。一番心に残っているのは高校2年の時の地震です。体育館の壁が落ちて来ました。この時は地鳴りもしたのでよくおぼえております。実際にあってみないとわからないと思いますが、この前の北部地震は東京にいたせいか余り感じなかったです。前の地震が教訓になっているみたいです。地震だけは、どうしようもないですね。解ってはいますが…
- ▶ パニックにならないように、パニックになっている人に巻き込まれないように、冷静に行動したいと思っています。
- ▶ 災害時に困ると思い町内会に入会していましたが、町内会を数年前に退会しました。今は家族4人働いていますから、市民税もかなりの金額を納めていますので、災害時、町内会に属していても避難所はもちろん使用できるし、食料の援助も個人的に受ける権利はあると思っています。
- ▶ 防災番組など見た時は、準備しなくてはと思うけれど、少し日がたてば忘れてしまう。
- ▶ 地震が起きたときに助かるかどうかは運で、もし、助かった場合は、避難所で働くことになりそうなので、自宅の備えは、ほとんどしていません。このアンケートで、一日3リットルも飲むと知り驚きました。（知識が足りませんでした。）市の訓練には参加していませんが、職場では、かなりしっかり訓練しています。
- ▶ 普段のおつき合いがないのに、災害時に、おたがいスムーズに助け合えるか心配です。せめて町内の回覧板を回す時だけでも手渡しで相手の元気な事が確認できるといいなと、思います。今は対話の時代とも言われております。相手の方を知り、自分の事も知っていただく、それに色々な情報も得ることが出来ると思うのですが。
- ▶ 大震災後は防災について考えるが、なかなか長く続かないように思います。定期的に、何かきっかけがあると良いと思います。
- ▶ 有事の時には皆がパニックになりますし、サービス業をしていると基本、訓練に出ることもなかなかできません。ですから市全体強制で行う等をしていかないと難しいでしょうね。
- ▶ 町内会に入っていない人も必ず防災訓練に参加する。市内みんな町内会へ必ず入ること。

子ども・高齢者・障害者の防災について

- ▶ 子どもに障害があるので、とても心配。いつもついていてあげられないので、いざという時に一人でどうするのか？電車や下校途中などの場合が、さらに心配。
- ▶ 自分自身、要援護者なので、一人の時の避難（被災）には不安があります。できるだけ近所の人とのつき合いを大事にしていきたいと思います。1人では何もできないので、家族も含めまわりの人に助けてもらわないといけないので…共助が重要だと考えます。できれば障害者など要援護者の二次避難所の避難訓練もしてほしいと思います。
- ▶ 個人情報保護法のため、マンション内の介護が必要な老人やその他の情報が入らないのは問題だと思う。市は手立てを考え実行してほしい。
- ▶ 市内に、在宅で人工呼吸器や酸素吸入を使用している人がいると思われるが、計画停電の時、該当者を福祉担当課ではつかんでいないとのこと。防災で、これらの人の対応を検討していただき

たいと考えます。すくなくとも市内の対応者の名前位は知っておく必要があります。非常の時、役にたつと思います。

- ▶ 自分も介護の仕事、又、父が左半身動かないもので、災害等起きた場合とても不安、心配です。
- ▶ 今日、若い夫婦の共働きが多く、日中家にいるのは高齢者。声を掛け合って避難するといってもスローペース。判断力、行動力も劣ってきています。頭の上には、高圧線、鉄塔も近くにありまですので家から飛び出さず、ある程度時間をおいて外の様子を見てから行動しようと思います。
- ▶ 自分自身が透析を受けなければならない障害者なので、災害時の状況でいろんな判断をしなければならないので少し不安である。
- ▶ 食料などを用意しておくのもそうですが、うちは子供がまだ小さいので、とっさにかばえるように上からおおいかぶさっても子供が嫌がって暴れないように遊びをとおして慣らしています。
- ▶ 防災については色々と検討されていますが、被災した子供たちのケアや助けになる取り組みも立案・検討して頂きたい。又、災害時における災害以外の小児救急が発生した場合の医療の確保や、対策を検討頂きたい。日頃から欠かさず受診をしている人たちも（小児において）多数おられると思うので、大人だけでなく、子供についてフォローをお願いしたい。実際大人用のオムツも少なくなっていました。子供用のオムツも無い状況があり、心配した親も多かったと思います。市でも備蓄にどの程度必要か検討していると思いますが、情報として公開して下さい。
- ▶ 子供が保育園と小学校へ通っているので、2ヶ所に引き取りに行くことが、うまくできるか、又、自分がパニック状態にならずに行動できるか不安に思います。
- ▶ 災害が起きたら足がわるいので、集合場所などに、いけないと思う。
- ▶ 高齢者で身障者なので、要介護2で自分では歩行困難。月・水・金とケアセンターへ行っている。介護保険ありがたい。
- ▶ 近所の高齢者の把握が必要。
- ▶ 小さい子どもがいるので、子どものためにどの程度の量のオムツや食料など用意するべきかわからないので、専門家のアドバイスがほしい。
- ▶ 平日は都内に勤務しているので、自宅周辺の援護者の支援はできないが、在宅している場合は、すすんで協力する。
- ▶ 子どもを連れて安全な場所まで行けるかが心配。

備蓄・避難場所・避難所等について

- ▶ 避難地区や地域を知らない人が、たくさんいると思う。もっと具体的にみんなが、わかるようにすべきだと思う。
- ▶ 西小・東小・一中、清流など川とか、がけのちかくに避難所はよくない。
- ▶ 大地震でも家が倒壊することはないと思うので、なるべくなら避難所ではなく家で寝泊りしたい。食料品などの配給だけもらいに行くような避難生活が可能だとありがたいと思う。
- ▶ さわがしい子供やプライバシーのない集団生活には、たぶん適応できないと思うので、何とか自宅に居れば一度は避難しても食料・トイレが自宅でなんとかなれば、戻ると思います。3・1

1 後、着火式のストーブを買い、いざと言う時のために、保管してあります。

- ▶ 一時避難場所が安全とはいえない。防災訓練の避難経路が現実には無理。
- ▶ 避難所での（女性・障害者・高齢者）への配慮！食物アレルギーのある人への配慮。
- ▶ 避難場所になる建物の内部環境を整える（網戸の設置等）
- ▶ 実際に災害が起こった場合には避難所生活になると思いますが、できれば町内会単位（又は町内会の組単位）でまとまるようになれば協力態勢もすみやかに組織だつと思います。又、被害者の援助についても、できる限り市でまとめ、正確に各避難所への連絡ができるようお願いしたいものです。
- ▶ 水・食料は、なんとかなるが、真夏や真冬に災害があったら冷暖房が困ると思う。

ライフライン・道路・市街地の防災・耐震について

- ▶ 水道管、ガス管の老朽化による破損。近隣がプロパンガスが多く、ボンベの転倒。
- ▶ 区画整理を早く進めてもらいたい。（生活設計がたたない。狭い道路では避難出来ない。）
- ▶ 羽加美1丁目に引っ越して来たばかりですが、避難場所が公園となっています（宮地公園）。そこに歩いて行く道路が狭くて実際に災害時に通行ができるか不安です。
- ▶ 住宅地の建ぺい率等のアップをし、密集させる様な都市計画をし、防災訓練をする行政はいかなものか。
- ▶ 近所に浄水所があります。災害時、浄水所の施設が大丈夫か気になります。水の配給をしてくれるのかなど情報を教えていただくと助かります。（広報などで）
- ▶ 富士見平は地盤も強固で、地震に対しては比較的安全だと思っている。
- ▶ 地盤が盛土なので、家の前に防壁2mの高さが有り、耐震性が心配です。
- ▶ 火災と倒壊が心配。（住宅が密集しているので他人の家からの延焼等、自分がどれだけ注意しても被害に遭う可能性が有ることが心配）
- ▶ 双葉町は道路がとても狭いので火事の時等、家がくっついているので、とても心配です。区画整理がされずに新しい家が出来ているので、とても心配です。道路確保をしてほしいです。
- ▶ 電柱の耐震診断は行われたのか心配（避難経路に障害物があるといけないから）
- ▶ 誰も住んでいない廃屋の撤去（放火・延焼の防止）
- ▶ 電柱や電線を地下に埋める対策、東日本大震災の教訓を羽村市で反映して生かしてほしい。
- ▶ 電柱の倒壊が心配である。

家具転倒防止や建物の耐震について

- ▶ 自分の勤務先の耐震性が心配になっている。企業は自分の従業員を守るための対策をとらなくてはいけないと思うので、耐震診断等を受け必要な事を実施した方が良い。会社員は仕事に被災する可能性が高いので。
- ▶ 耐震診断・耐震リフォーム お金があれば行いたい。
- ▶ 栄町のマンションに住んでいます。築20年という事ですが、近所の中ではますますの大きさの

建物です。日頃のエレベーターの異音や古い建物という事での耐震がどの程度のものなのか、非常に気になっています。個人的には、住んでいる所にいる時地震が来た時は、覚悟を決めています。

- ▶ 我が家は昭和 56 年以前の建築でしかも木造であるので、日頃から火の始末や家具の転倒防止など心掛けています。
- ▶ 市営住宅は古いので、耐震などととても不安。大丈夫か教えて欲しい。

防災訓練について

- ▶ 防災訓練について、3.11 の実情をよく分析して、実態に即した避難、消火、救急等の訓練にして欲しい。高齢者も参加できる方法を工夫して欲しい。
- ▶ 防災訓練に、もっと大勢参加してほしい。
- ▶ 昨年 9 月の羽村市の防災訓練に始めて参加しました。町内会に加入していない（勧誘もない）ので、近所につながりがほとんどなく、防災訓練も町内会のまとまりでやっていて、自由に話ができる雰囲気ではなかったのが残念でした。避難場所へ着いてからの講習はためになりました。町内会加入・非加入に関係なく、隣近所の声のかけあいが必要だと思う。
- ▶ 防災訓練に参加して、いざという時のことをもっと考えておきたい。
- ▶ 教育、訓練の充実
- ▶ 毎年防災の日に実施されている防災訓練に参加している人達の顔ぶれが同じ人達であり、もっと多くの方達に参加して頂きたいと思う。→特に若年層に！
- ▶ 防災は、昼夜いつおこるか分からないので、できたら夜（少し早い時間）にも大変ですが、防災訓練をしていただけたらと思っています。
- ▶ 町内会に入っていない人も必ず防災訓練に参加する。市内みんな町内会へ必ず入ること。
- ▶ 小学生の一人で避難所に行く訓練をする。
- ▶ 9 月 1 日・3 月 11 日・1 月 17 日ごろ訓練をする。
- ▶ 消火器等の防災訓練も必要ですが、時には生きのびるための知恵・知識等の講習会もあると良いと思う。

ペットの防災対策について

- ▶ 避難場所があるのは知っているが、愛犬がいたり病人がいたり、どうしても行く気になれない。そのために自分達で生活出来るように、ある程度は準備している。だからと言って協力しないわけではないし、出来る事はやる心がまえはある。まずは個々が出来る事は、しておくべきだと思う。災難にあえば人は協力するだろうし団結するはず（東日本が見本）だから、今は大人になった子より愛犬がどうなってしまうかが一番気がかり。だから家からは離れないと思う。（自分勝手であるが）
- ▶ やはりペットと一緒に避難できるのか心配です。
- ▶ 地震の時に、ペット（犬）と一緒に避難出来る場所を確保して欲しい。

その他

- ▶ 建物の応急度判定の資格があるので、協力したい。
- ▶ 一番大切なのは、震災後の「市民ボランティア」ではないか。普段から地域ごとに「市民ボランティア」の準備、活動をして欲しい。
- ▶ 以前、小河内ダムが決壊した場合のシュミレーションを TV で見て、津波による災害はなくても多発火災や、ダム決壊による浸水被害はおこりうるのかなと思う。市で満水時における小河内ダムの決壊が起きた際、どの様な災害が起こりうるのか、ハザードマップなり想定しうる情報を提供してほしい。
- ▶ 小河内ダムが壊れたら、羽村まで影響があるのかどうか、横田基地に何かあったらどうなのか、気になっています。
- ▶ 東日本大災害以降、市民の関心は非常に高くなっていることは良い傾向と思うが、余りにも神経質になり、その心理について家屋の改築や改善を迫る商売業者による勧誘には閉口している。

III 調査票

防災に関する市民アンケート

【アンケートご協力をお願い】

日ごろから、市政運営にご理解とご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

さて、羽村市では地域防災計画の改定に先立ち、市民の皆様の防災に関するお考えや、日ごろからの災害への備えの状況についてアンケートを行い、この結果を地域防災計画及びこの計画に基づく施策に反映させることといたしました。

ご多忙のところ、ご面倒をおかけしますが、地域防災計画の改定を行ううえで貴重な資料となりますことから、ぜひ、ご協力をお願いします。

なお、このアンケートは、市内にお住まいの満20歳以上の方の中から無作為に1,000名を選ばせていただきました。

また、調査集計結果は、市のホームページ等で公表させていただきますが、調査は無記名とし、ご回答いただきました内容は、調査目的以外に利用することはありません。

このため、ご回答いただきました皆様にご迷惑をおかけすることはありませんので、ご安心のうえ、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成24年11月

羽村市長 並木 心

【ご記入にあたって】

- ・封筒の宛名にあるご本人様がお答えください。ご本人様の記入が困難な場合は身近な方がご本人様のお考えや実態を聞きながら代筆をしていただいで結構です。
- ・ありのままのお考え、状況をお答えください。
- ・鉛筆または黒のボールペンでご記入ください。
- ・該当する選択肢の番号を○で囲んでください。設問により○の数を指定しているものがありますので、指定された数にしたがって○をつけてください。回答が「その他」にあてはまる場合は、お手数ですが、()内になるべく具体的にその内容をご記入ください。
- ・調査票および封筒には住所・氏名をお書きにならなくて結構です。
- ・調査用紙にご記入の上、同封の返信用封筒にて回答期限までにご投函ください。

回答期限 12月25日(火)

【防災に関する市民アンケートに関するお問い合わせ】

羽村市市民生活部危機管理課 042-555-1111

内線 211・217

【地震への関心について伺います】

Q 1 首都直下地震についてご存知ですか？（○は1つ）

- | | | |
|-----------|-----------|-------------|
| 1 よく知っている | 2 多少知っている | 3 あまりよく知らない |
| 4 全く知らない | | |

Q 2 羽村市及び周辺地域で大地震が発生する確率はどのくらいだと思いますか？（○は1つ）

- | | | |
|---------|---------|-----------|
| 1 非常に高い | 2 高い | 3 あまり高くない |
| 4 低い | 5 わからない | |

Q 3 今年度の市の総合防災訓練で想定した、立川断層帯での直下型地震（羽村市内では震度6強）が発生した場合、ご自宅やその周辺ではどのような危険があると思いますか。

（○はいくつでも可）

- | | | |
|----------------|----------------|-------------|
| 1 家屋の倒壊 | 2 近隣の建物の倒壊 | 3 ビルの倒壊 |
| 4 自宅の出火 | 5 火災の延焼 | 6 自宅内の家具の転倒 |
| 7 ブロック塀の倒壊 | 8 ガラスの飛散 | 9 屋根瓦の落下 |
| 10 看板等屋外の落下物 | 11 店舗内の陳列商品の落下 | |
| 12 エレベーターの閉じ込め | 13 その他（具体的に： | ） |
| 14 特に危険は無いと思う | 15 わからない | |

Q 4 立川断層帯での直下型地震（羽村市内では震度6強）が発生した場合、あなたまたはご家族に危険があると思いますか？（○は1つ）

- | | | |
|--------------------------------|---------------|---------------|
| 1 生命の危険がある | 2 重傷を負う可能性がある | 3 軽傷を負う可能性がある |
| 4 けがの危険性は無いが、避難が妨げられるなどの可能性がある | | |
| 5 特に危険なことは無い | 6 わからない | |

Q 5 災害発生時に、特に心配することは何ですか？（○はいくつでも可）

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1 家族の安否 | 2 水道や電気等、ライフラインの確保 |
| 3 食料品の確保 | 4 トイレの確保 |
| 5 通信手段が遮断され連絡不可能 | 6 家屋の倒壊、損壊 |
| 7 火災の発生 | 8 家具の転倒、損傷 |
| 9 災害情報の入手 | 10 避難場所の確保 |
| 11 治安の悪化 | 12 交通機関の麻痺 |
| 13 帰宅困難 | 14 液状化現象の発生 |
| 15 その他（具体的に： | 16 特になし |
| ） | |

【東日本大震災発生時の状況について伺います】

Q 6 東日本大震災発生時（平成 23 年 3 月 11 日 14 時 46 分ごろ）、あなたはどちらにいましたか。

- | |
|----------------------------|
| 1 自宅にいた ※1 |
| 2 勤務先・学校にいた |
| 3 上記1、2（自宅・勤務先・学校）以外の施設にいた |
| 4 屋外にいた・歩いていた・自転車などに乗っていた |
| 5 車またはバイクを運転していた |
| 6 電車またはバスに乗っていた |
| 7 その他（具体的に： _____) |

Q 7 地震発生時（ゆれている間）、とっさに何をしましたか。（〇はいくつでも可）

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1 テレビやラジオで地震情報を収集した | 2 火の始末をした |
| 3 家具やテレビなどを押さえたりした | 4 ブレーカーを落とした |
| 5 安全な場所に移動し身の安全を守った | 6 丈夫なものにつかまって身体を支えた |
| 7 その場で様子をみた | 8 家族や周りの人に声をかけた |
| 9 子どもや高齢者、病人などを保護した | 10 玄関のドア・窓を開けた |
| 11 家や建物の外に飛び出した | 12 車・バイクを停止させた |
| 13 その他（具体的に： _____) | 14 何もしなかった（できなかった） |
| 15 覚えていない | |

Q 8 東日本大震災当日、特に困ったことはどのようなことですか。（〇はいくつでも可）

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1 知りたい情報が入手できなかった | 2 携帯電話がかかりにくかった |
| 3 固定電話がかかりにくかった | 4 携帯電話メールが使えなかった |
| 5 インターネットが使えなかった | 6 家族に連絡ができなかった |
| 7 職場に連絡がとれなかった | 8 公共交通機関が麻痺した |
| 9 道路が渋滞した | 10 道がわからず目的地に行けなかった |
| 11 避難所の場所がわからなかった | 12 その他（具体的に： _____) |
| 13 困ったことはない | |

※1 Q6で「1 自宅にいた」とお答えの方は、Q8をご回答いただいた後「Q11」にお進みください。

【次の2つの設問は、Q9-2で「1 徒歩」とお答えの方に伺います】

Q9-3 帰宅する際にどのような困難な状況がありましたか。

- | |
|---------------------------------|
| 1 帰宅経路がわからなかった |
| 2 トイレを利用できる場所が見つからなかった |
| 3 公共施設などの場所がわからず、情報を得ることができなかった |
| 4 飲食店などが休業し、食事や休憩がとれなかった |
| 5 携帯電話が通じなかった |
| 6 携帯電話の充電がなくなった |
| 7 革靴やハイヒールを履いていたので歩きづらかった |
| 8 その他（具体的に： _____） |
| 9 特にない |

Q9-4 帰宅する際に、水やトイレを利用した施設はどこですか？

- | | | |
|-------------|--------------------|------------|
| 1 公共施設や学校 | 2 コンビニエンスストア | 3 ガソリンスタンド |
| 4 一般の住宅 | 5 その他（具体的に： _____） | |
| 6 特に利用していない | | |

【次にQ9-1で2～7を選択した「帰宅できなかった」とお答えの方に伺います】

Q10 帰宅困難になった際、困ったことはどのようなことですか？（〇はいくつでも可）

- | | |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1 携帯電話がかからなかった | 2 電話がかからなかった（固定電話） |
| 3 電話がかからなかった（公衆電話） | 4 携帯電話のメールが使えなかった |
| 5 インターネットが使えなかった | 6 家族との連絡が取れなかった |
| 7 親戚・知人との連絡が取れなかった | 8 飲料水や食料が確保できなかった |
| 9 道路が渋滞した | 10 帰宅経路がわからなかった |
| 11 帰宅困難者用の一時滞在施設の場所がわからなかった | 12 公共交通機関の復旧見通しがわからなかった |
| 13 とにかく不安だった | 14 その他（具体的に： _____） |
| 15 困ったことはない | |

【ここからは、みなさんにお伺いします】

Q 1 1 東日本大震災発生時、ご家族とどのように連絡を取りましたか、あるいは取ろうとしましたか？また、今後は、災害発生時にご家族とどのように連絡を取る予定ですか？（○はそれぞれいくつでも可）

連 絡 手 段	東日本大震災発生時	今後の災害発生時
1 固定電話	1	1
2 携帯電話	2	2
3 携帯電話のメール	3	3
4 携帯電話用の災害用伝言版	4	4
5 災害用伝言ダイヤル171	5	5
6 パソコンのメール	6	6
7 災害用ブロードバンド伝言板WEB171	7	7
8 SNS（ツイッター・フェイスブック・ミクシィ等）	8	8
9 その他（具体的に： ）	9	9
10 特に決めていない	10	10
11 連絡する必要は無い	11	11

【日頃の防災対策について伺います】

Q 1 2 震災時の家族との集合場所を決めていますか？（○は1つ）

1 東日本大震災前から決めている	2 東日本大震災後に決めた
3 これから決めようと考えている	4 決めていない

Q 1 3 東日本大震災発生前から行っていた地震対策は何ですか。また、東日本大震災発生後、地震に備えて行った対策は何ですか？（○はそれぞれいくつでも可）

事柄	東日本大震災 発生前	東日本大震災 発生後
1 家族との連絡方法を決める	1	1
2 地震のときに避難する場所を決める	2	2
3 家族が離れ離れになったときの集合場所を決める	3	3
4 自宅や勤務先付近の安全な避難路を確認する	4	4
5 風呂に水を入れておく	5	5
6 消火器や水を入れたタンクなどを用意する	6	6
7 幼稚園、小学生等子どもの引き取り方法を決める	7	7
8 家具転倒防止のため固定する	8	8
9 ガラスの飛散防止	9	9
10 非常用持出品の用意	10	10
11 ブロック塀の点検や倒壊防止	11	11
12 食料品などをまとめ買いする	12	12
13 非常用懐中電灯や乾電池を備蓄する	13	13
14 地震や防災に関するニュースや番組(テレビ・新聞・インターネットなど)をチェックする。	14	14
15 防災訓練に参加する	15	15
16 その他 具体的に：	16	16
17 何もしていない	17	17

Q 1 4 ご自宅に通常買い置いている食料で災害時に何日程度暮らせるとお考えですか？

(○は1つ)

1 1日	2 2日	3 3日	4 4日	5 5日
6 6日	7 7日以上	8 用意していない		

Q 1 5 ご自宅で災害用に備蓄している食料(調理不要な食品)は何日分程度ですか？

(○は1つ)

1 1日分	2 2日分	3 3日分	4 4日分
5 5日分	6 6日分	7 7日以上	8 備蓄していない

Q 1 6 ご自宅で災害用に備蓄している「飲料水」は何日分程度ですか？ご家族1人あたり1日3リットルで計算してください。(○は1つ)

1 1日分	2 2日分	3 3日分	4 4日分
5 5日分	6 6日分	7 7日分	8 備蓄していない

【ご家庭内の安全対策と住居の耐震化について伺います】

Q 17 ご自宅の家具転倒防止のための対策を講じていますか？（○は1つ）

- | | |
|---|---------------------------|
| 1 | すべての家具を固定した |
| 2 | 大部分の家具を固定した |
| 3 | 一部の家具を固定した |
| 4 | 家具の固定をしようと思っているが、まだやっていない |
| 5 | 今のところ家具の固定は考えていない |

Q 18 お住まいの住宅は、いつ頃建てられたものですか。増改築された場合は、主要な部分の建築年をお答えください。（○は1つ）

- | | | |
|---|------------------|------|
| 1 | 1981年（昭和56年）5月以前 | } ※5 |
| 2 | 1981年（昭和56年）6月以後 | |
| 3 | わからない | |

↳ ※5 「2」または「3」（「1 1981年5月以前」以外）とお答えの方は「Q21」にお進みください。

【次の2つの設問は、Q18で「1 1981年（昭和56年）5月以前」とお答えになった方に伺います】

Q 19 ご自宅の耐震診断をしたことがありますか。

- | | | | | | |
|---|----|---|----|---|-------|
| 1 | ある | 2 | ない | 3 | わからない |
|---|----|---|----|---|-------|

Q 20 市では「耐震診断」及び「耐震改修」に対する補助制度を設けていることをご存知ですか？

- | | | | |
|---|--------|---|---------------------|
| 1 | 知っている | 2 | 聞いたことはあるが、内容はよく知らない |
| 3 | 知らなかった | 4 | わからない |

【ここからは、みなさんにお伺いします】

【災害時の避難について伺います】

Q 21 災害時に避難する場合、ご自分の住む地域の一時集合場所、避難場所、避難所をご存知ですか？

- | | | | | | |
|---|-------|---|------|---|-------|
| 1 | 知っている | 2 | 知らない | 3 | わからない |
|---|-------|---|------|---|-------|

Q 2 2 災害時に避難する場合、あなたが特に心配なことは何ですか？（○はいくつでも可）

- | |
|------------------------------------|
| 1 災害についての的確な情報が得られなくなること |
| 2 家族との連絡が取れなくなること |
| 3 病人・高齢者・障害者のケアができなくなること |
| 4 子どもや乳幼児を連れて安全に避難できないのではないかとということ |
| 5 近所の人たちと助け合って避難できるかどうかということ |
| 6 避難場所が安全かということ |
| 7 ペットと一緒に避難できるかどうかということ |
| 8 その他（具体的に： _____） |
| 9 特にない |

【防災訓練について伺います】

Q 2 3 過去1年間に、地域の防災訓練に参加したことがありますか？

- | | |
|-----------|-----------|
| 1 参加した ※6 | 2 参加しなかった |
|-----------|-----------|

↳ ※6 「1 参加した」とお答えの方は「Q24」にお進みください。

【次の2つの設問は、Q23で「2 参加しなかった」とお答えの方に伺います】

Q 2 3-1 参加しなかった理由は何ですか？（具体的にご記入ください。）

--

Q 2 3-2 地域で参加を要請された場合は参加すると思いますか？（○は1つ）

- | | |
|-----------------|--------------|
| 1 要請があれば参加すると思う | 2 たぶん参加すると思う |
| 3 どちらともいえない | 4 参加しないと思う |

【災害時要援護者対策について伺います】

Q 2 4 市が実施している災害時要援護者制度についてご存知ですか？（○は1つ）

- | | |
|------------------------|--------------|
| 1 よく知っている | 2 だいたい知っている。 |
| 3 聞いたことはあるが、内容はよくわからない | 4 全く知らない |

Q 2 5 災害発生時に避難する際、近所に高齢者や障害をお持ちの方がいた場合に、その方を誘導しながら避難することができると思いますか？（○は1つ）

4 同居している家族構成は？

- | | | |
|----------------|-------------|--------------|
| 1 ひとり暮らし | 2 夫婦のみ | 3 親と子（2世代世帯） |
| 4 親と子と孫（3世代世帯） | 5 その他（具体的に： | ） |

5 （住宅の形態）お住まいの形態は次のどれですか？

- | | |
|---------------------|------------|
| 1 一戸建て（持家） | 2 一戸建て（借家） |
| 3 集合住宅（分譲） | 4 集合住宅（賃貸） |
| 5 公営住宅（公団・公社・都営・市営） | 6 社宅・寮 |
| 7 その他（具体的に： | ） |

6 （住宅の構造）お住まいの構造は次のどれですか？

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1 木造 | 2 鉄筋コンクリート（RC）構造 |
| 3 鉄骨鉄筋コンクリート（SRC）構造 | 4 その他の非木造 |
| 5 非木造だが構造不明 | 6 わからない |

7 お住まいの地域はどちらですか？

- | |
|------------------------------|
| 1 神明台1～4丁目 |
| 2 双葉町1～3丁目・川崎番地 |
| 3 五ノ神1～4丁目 |
| 4 富士見平1～3丁目・羽4131～4184・五ノ神番地 |
| 5 緑ヶ丘1～5丁目 |
| 6 栄町1～3丁目 |
| 7 小作台1～5丁目 |
| 8 羽西1～3丁目 |
| 9 羽加美1～4丁目 |
| 10 羽中1～4丁目 |
| 11 羽東1～3丁目 |
| 12 川崎1～4丁目 |
| 13 玉川1～2丁目・羽690～744 |

8 羽村市に住み始めて何年になりますか？

- | | | |
|------------|------------|-----------|
| 1 3年未満 | 2 3～5年未満 | 3 5～10年未満 |
| 4 10～20年未満 | 5 20～30年未満 | 6 30年以上 |

～ご協力ありがとうございました～

同封の返信用封筒にて12月25日（火）までにご投函ください

羽村市防災に関する市民アンケート報告書

平成25年3月

発行：羽村市市民生活部危機管理課